

大和名所圖會

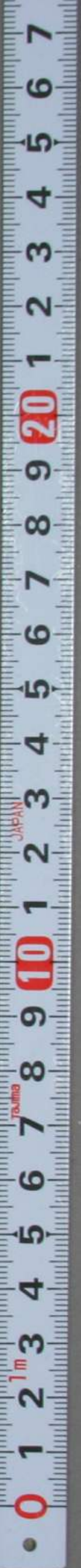
葛上郡字知郡  
高市郡  
五

下  
伊  
新

ル 4

5326

5





下伊勢新

大和名所圖會卷之五



葛城山 高六寺 極樂寺 故葛本寺 風森 高鴨社 水分社 茅原寺 沈心宮 巨勢郡

高市郡 葛上郡 宇知郡 目録

一言主社 蜘蛛窟 船丘 伏見社 櫻井 御歳社 高丘廟 孝安天皇陵 葛城川 今本雙墓

石橋 高六彦社 朝妻山 菩提寺 細井 多田社 檀原宮 白鳥陵 巨勢社 大穴持社

上野北河町拾四番地 伊勢屋 岡新共衛 丁51(町) 通街

金剛山寺 松原井 葛本沈 壺井 中位寺 長柄社 腋上噺間岳 彈琴原 大倉社 外然川



|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 鴨都波社  | 來迎寺   | 戒那山   | 鴨山神社  |
| 小原    | 千塚    | 重丘    | 大重社   |
| 室山    | 吾妻社   | 室秋津島宮 | 孝昭天皇陵 |
| 磐余若櫻宮 | 阿多大神  | 阿陀社   | 阿陀墓   |
| 龍宮窟   | 榮山寺   | 後阿陀墓  | 後永長岡宅 |
| 小橋城   | 宇聖親法宅 | 龍沈社   | 度人墓   |
| 月見寺   | 王墓    | 楯井    | 鳳凰寺   |
| 高大社   | 一尾背社  | 霹靂社   | 觀音寺   |
| 荒本社   | 宇智社   | 矢田島宮  | 御靈社   |
| 良家寺   | 丹生川   | 丹生川社  | 吉祥院   |
| 宇智陵   | 火雷社   | 二見城   | 久澤川   |
| 二見社   | 統社    | 櫻井寺   | 櫻井    |
| 中村社   | 安井寺   | 上村城   | 神福山   |

|               |       |       |      |
|---------------|-------|-------|------|
| 大澤川           | 佐々雄社  | 大澤寺   | 楊貴氏墓 |
| 蓮義寺           | 真土山   | 戸立山   | 角田川  |
| 落社            | 大飼寺   | 内大神   | 安日寺  |
| 吉野川河口         | 狹嶺山   | 高市    | 國分寺  |
| 獲武川           | 鴨事代主社 | 秀泉井   | 路柵社  |
| 來系井           | 廢藥師寺  | 田中宮   | 馬立社  |
| 石川廢精舎         | 孝元天皇陵 | 田見沈   | 大野丘塔 |
| 廢大官大寺         | 豐浦沈   | 耳檉社   | 味檀丘  |
| 廣巖寺           | 難波堀江  | 獲我入鹿第 | 小壘田宮 |
| 輕沈            | 廢輕寺   | 曲峽宮   | 境原宮  |
| 豐明宮           | 檜隈陵   | 廢川系寺  | 橋寺   |
| 古神塚 春井<br>石燈爐 | 板蓋宮   | 廢坂宮   | 神名備山 |
| 飛多社 日井        |       | 川原寺   | 飛多寺  |



|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 飛鳥社   | 遠飛鳥社  | 飛鳥宮   | 荒塚    |
| 飛鳥川   | 飛鳥里   | 七瀬    | 大國社   |
| 雷丘    | 矢鉤    | 八鉤宮   | 大原    |
| 藤原    | 大織冠第址 | 法光寺   | 後井系   |
| 後井宮御井 | 夜通媛家地 | 津御原   | 細川    |
| 津陵    | 氷室址   | 和既社   | 淡茅系   |
| 氷室趾   | 滑谷陵   | 大仁保社  | 南園    |
| 加衣奈社  | 金剛寺   | 都塚    | 飛鳥川上社 |
| 新澤    | 龍福寺   | 田磨第   | 吳津社   |
| 勾池    | 真名池   | 嶋宮    | 園寺    |
| 後園    | 逝田丘   | 岡本宮   | 治田社   |
| 遊園    | 倭彦命墓  | 鬼廁    | 鬼肉儿   |
| 檜荒川   | 於羨社   | 欽明大皇陵 | 文武大皇陵 |

|       |       |       |     |
|-------|-------|-------|-----|
| 子島社   | 靈就寺   | 高生社   | 壺阪寺 |
| 五百羅漢石 | 曼陀羅石  | 鷹鞭    | 高取  |
| 子嶋寺   | 竹取    | 波多社   | 依田丘 |
| 重阪川   | 櫛王社   | 真弓丘   | 然野  |
| 真弓陵   | 許世都社  | 齊明大皇陵 | 巨勢  |
| 宣化大皇陵 | 鳥坂社   | 石椋小野  | 牟佐社 |
| 益田池   | 久米社   | 久米川   | 輕樹社 |
| 安寧大皇陵 | 綏靖大皇陵 | 久米寺   | 鬼頭田 |
| 畝火    | 畝火社   | 懿德大皇陵 | 娘孑塚 |
| 大窪廢寺  | 高市社   | 井谷井   | 御陵  |
| 神武大皇陵 | 宗我部社  | 獲我河系  | 小細邑 |
| 大高市社  | 枕黄邑   | 人磨社   | 金橋宮 |
| 太王命社  | 川俣社   | 稻代社   | 天神社 |



下伊勢新



古今大母不御  
ふるたやまの  
志とこい人  
くわいこい小  
海老丸  
まふく  
時ふく  
かりな  
おふ

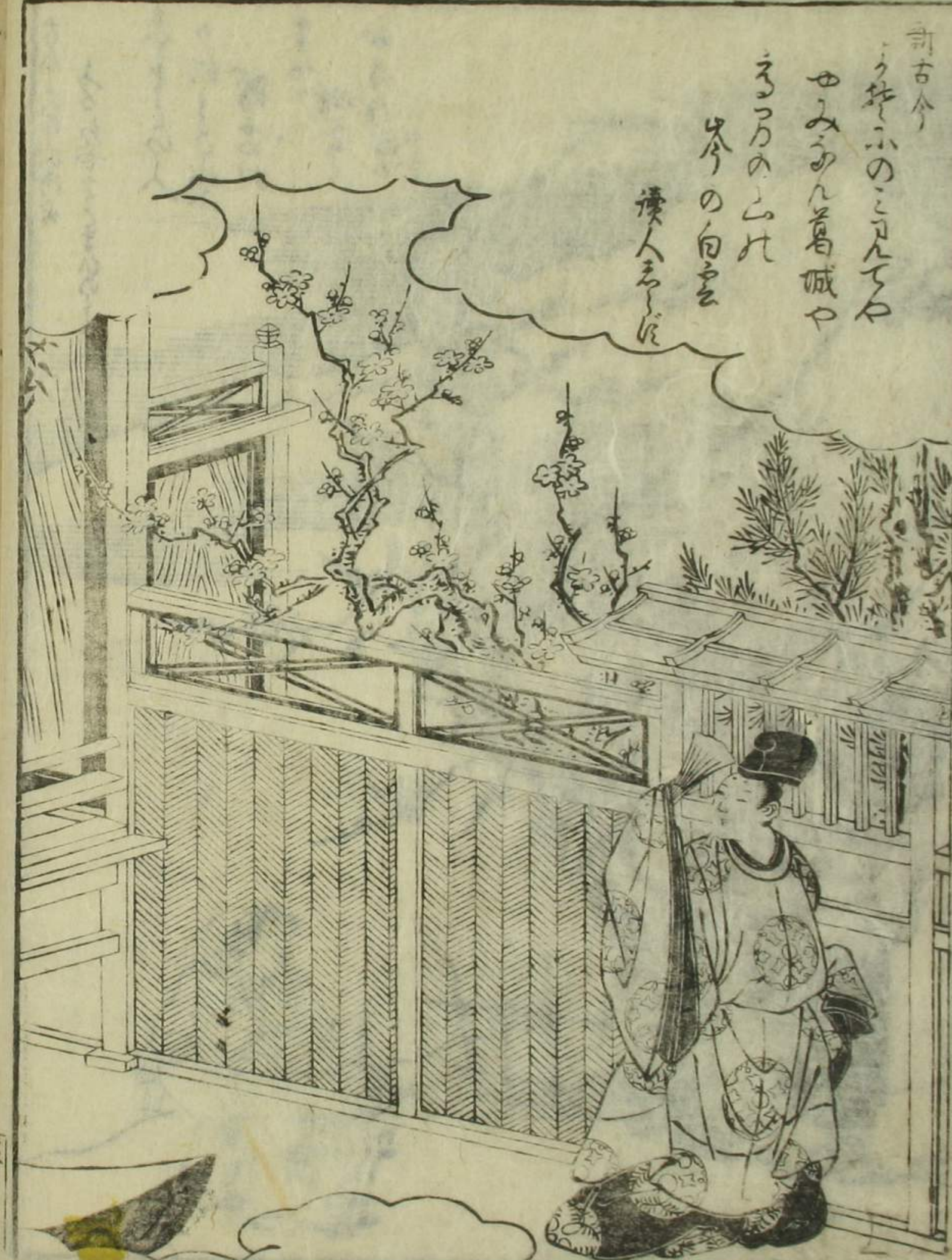
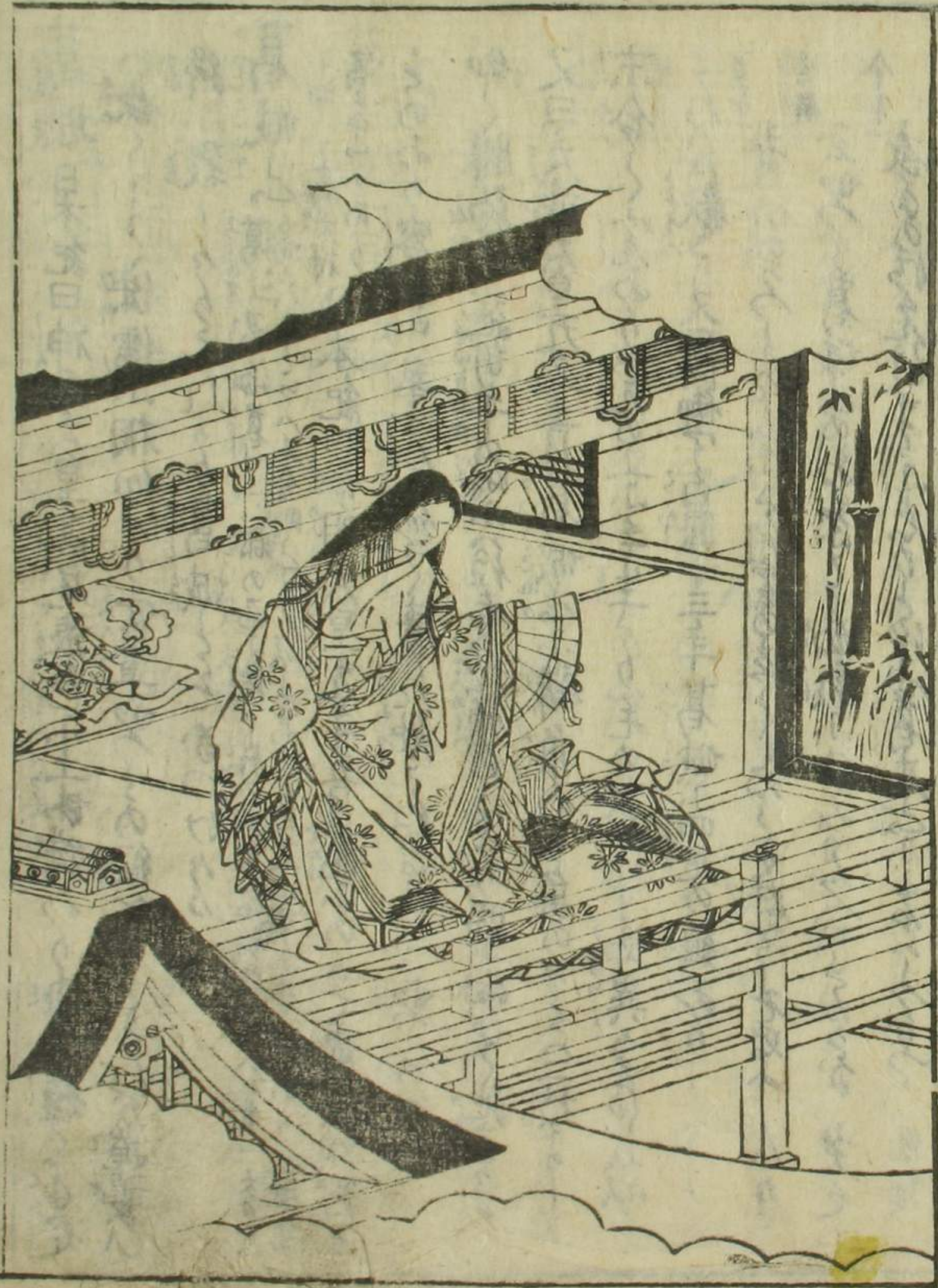
長法寺

法器寺

菅丞相の莊

上野北門町拾四番地  
伊勢屋  
岡新兵衛





古今  
くせふのこんてや  
ゆみあんき着城や  
えつりのしられ  
古今の白き  
漢人まじり















石橋

河内志百平石村の上小あり其處五尺長七尺二寸あり石の傍あり一説より

形勢新築なるなりむう役行者のつたの家より金峯寺より

通路小石橋のけりんとを衆神の命とすけりておのつたのまに

一言主神容貌いと醜くつれ書真の役とすけりておのつたのまに

より橋のつてけりて役行者のつてけりて一言主神と呪縛して深谷より

石橋人々 けりて書々小石のつてけりて

余筆の記曰役小角の一言主神と縛繋しけりてけりて一言主怒んかつてけりて

幾しけりて日役優婆塞の國家とゆふとけりて文武帝親が下してけりて小角とゆふ

忽ち空小騰と飛去りけりて官使討罪をけりてけりてその母を捕り

小角已ことけりてけりてけりてけりて配所伊豆の大嶽小遠流せけりて日本霊

異記にけりてけりてけりてけりて信用してけりて實に役行者昔日本

とに任しけりてけりてけりてけりて外從五位下韓國連を授けりてけりて小角の伴

とに任しけりてけりてけりてけりてけりて女惑ん吐き大に徳は遠小角と文武大皇

二年五月伊豆の大嶽に死せしけりてけりておのつた小角の徳は遠小角と文武大皇

使しけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

古今 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

後拾遺 中たゆり昔本山の岩橋をけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

十載 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

續法撰 首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

新千載

首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

舊事紀

首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

神皇正統記

首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

薩衆於中止

首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

人俱常其中

首味やけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて





新千歳  
 かつらぎの  
 神あそび  
 大川  
 おくた  
 俺  
 かこ  
 の  
 橋  
 後崎城院



新千歳  
 かつらぎの  
 神あそび  
 大川  
 おくた  
 俺  
 かこ  
 の  
 橋  
 後崎城院



金剛寺

舊傳の云くあり大和志曰正堂一宇小祠二本列小厨は十六條の石圍と一名神祇堂と又名一葉峯又名金剛峯又名縛日羅獨亦酉卷又大日本日高見國葛城山と記

本堂の法起菩薩不動明王藏王権現の三尊役小角の所化より

正月ニケ日大老八大金剛童子小供物とそふ(着城心経と云ひひ

たり役仍者自往涌現の十童よみんりて八大金剛童子小供物小遷

一七六童子(葛木小遷)一七六一經護童子(須弥頂佛岳跡) 廿二

福集童子(師子相佛岳跡) 廿三常仍童子(常徳佛岳跡) 廿四集飯童子

梵相佛岳跡 廿五宿著童子(度一切世間苦惱佛岳跡紅宿) 廿六禪宗童子(須弥相

般若嶽) 廿七羅網童子(釈迦留岳) 廿八新社あり

洞の堂役仍者の遺像あり六月七日法念ん修しその日護摩堂小

茶燈の護摩あり宗名直言ありて弘法大師の御教堂大里堂求

聞持堂辨財丈社文殊菩薩石寶殿鎮ち二十八新社あり

金剛と大和の内五坊あり今の本堂と大和の内五坊あり内より

南遊紀り云(奥京)着城といふ大峯外峯内より近國より是後之より

分んは絶頂小着城の神社あり一云まの神といふ役仍者堂あり

の上より二所あり小とといふ内國金剛の持法痛ちあり役小角の陶基之

是の伏の嶺へて修法とる所之傍ち六坊あり皆家化英大と大和の内

農民け神は在尊崇し社の下れ土とありたりて我田也小入とて

縮く實多く出くといふとて小の人数一皆宿坊多く宿とる者あり

櫻那小ありとて宿と備とる着城の社といふとて頂上小在て大和國之

金剛のち院ありのふれありとて新小在ての内之着城の在社のよりある不動の

之より大和の内之境之着城の小あり大とていふが嶽といふ内小は是の藤家

流と藤家言着城といふありとて着城金剛の峯とてありとて

金剛と土産桔梗防己藤

防己藤

防己藤





堀川二弟百首  
 明々々々々々々々々々  
 どんろ指すまみ

山伏のうしろ

火かきと

こぞ  
 はんばい

兼四



刺原寺 實文記曰金剛山の左堂より廿八町坂中 小 はちた 靈室 の 役行者 の 白

畫の糸大黒天像 (傳教大師の化) 迦如來 の 春日の化田植乃毘沙門

やそいみ へ 自田 なる 人 の 形 ひ 多 る 像 の 今 小 所 に 小 土 つ き く る

との八王子社あり 中 頃 比 敷 の 八王子 断 級 に お ひ し 時 代 新 し り

勅使 より 所 れ り 比 敷 と 繁 榮 せ し と り 金 剛 童 子 堂 辨 財 大 乃

や し る 鎮 守 三 十 八 所 社 あり

石寺 實文記曰金剛山本堂より廿八町紀別の方小至 本尊 の 石佛 の 茶師 如 来

これ の 役 行者 百 海 國 より 願 あり 終 を 今 云 傳 く こ の ゆ へ 小 至 す と 是 に

境内 の 方 十 町 余 あり し り 仍 者 堂 甚 明 神 金 剛 童 子 堂 辨 財 大 社

鎮 守 三 十 八 所 社 あり

南遊 紀 仍 云 傳 家 と 尊 城 と の 方 小 水 越 嶺 と 大 和 海 内 往 來 此

道 あり 是 楠 正 成 吉 野 殿 (往 來 の 道 を り し り と り 入 金 剛 と り 西 の

方 へ 下 と 水 分 の 社 至 る を 本 乃 多 り 其 坂 六 十 町 を 海 内 を 大 和 と り

地 を わ り 坂 小 路 長 し 又 神 の 方 二 十 七 町 り 七 早 村 小 の 方 是 と り 乃

る り 又 坂 より 廿 餘 町 と り り 金 剛 と り 小 子 と の 向 は 楠 正 成

の 石 塔 あり 頗 大 あり 石 燈 臺 二 基 各 石 瑞 垣 あり 石 川 を 狹 守 屋

建 立 す り 即 南 小 向 つ り 正 成 の 墓 拵 別 溪 川 小 あり の 軀 墳 あり と り 小

あ ら の 首 塚 あり と り 是 多 る は より 正 成 の 首 の 故 郷 へ 送 れ り か

埋 し 亦 あり し り 子 早 の 城 乃 海 内 國 あり て

大 和 巡 覽 記 曰 或 説 小 首 城 は 日 本 四 番 の 高 と り と り と り 小 首 堂 と り 大 和

河 内 松 津 を 海 眼 下 小 速 と り

高 天 大 寺 實 文 記 曰 高 天 大 寺 は 金 剛 山 の 標 兼

み し と り 高 天 大 寺 の 正 堂 一 寺 僧 舎 六 院 實 文 記 曰 高 天 大 寺 は 金 剛 山 の 標 兼

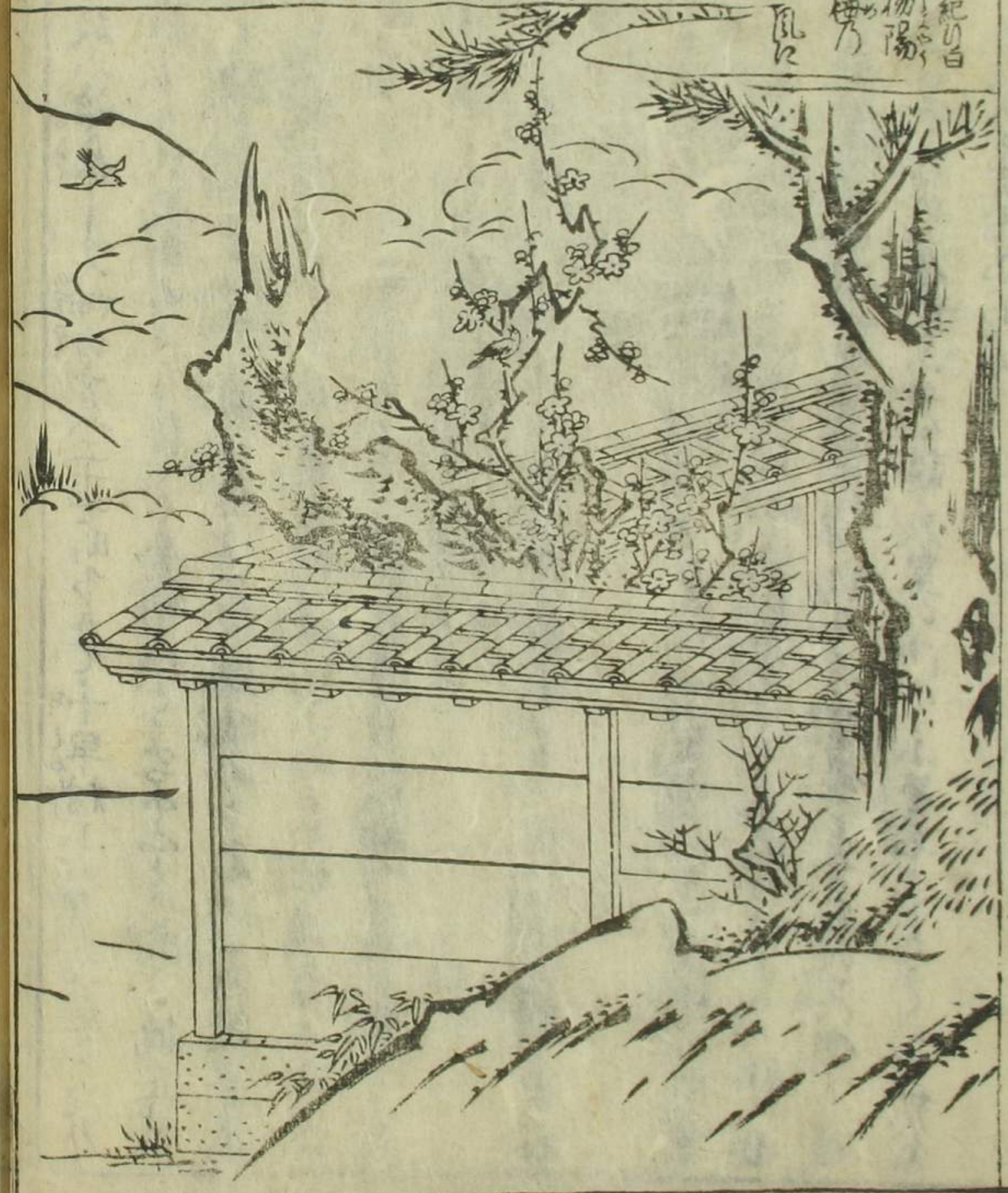
し 七 傳 小 三 面 西 の 堂 小 十一 面 觀 世 音 釈 尊 の 靈 像 と 安 を 置 け 其 側 小 遍

照 院 と い ふ 茶 房 の 庭 景 小 孝 謙 大 皇 の 沖 宇 小 等 と り と り 加 秋 公

孫 と い ふ 梅 の 本 今 小 あり



林名原野和紀の白  
 とくまの物陽  
 毎朝来の梅乃  
 樹らるる風は  
 なほとく  
 よしとく  
 なかりは株  
 枯朽しとく  
 わりぬらた  
 小枝ありとく  
 朽てとく  
 梅もとく  
 まの  
 毛ぬ  
 公名か  
 舞し  
 のこと  
 号



号小  
 古調  
 号天寺  
 南洞

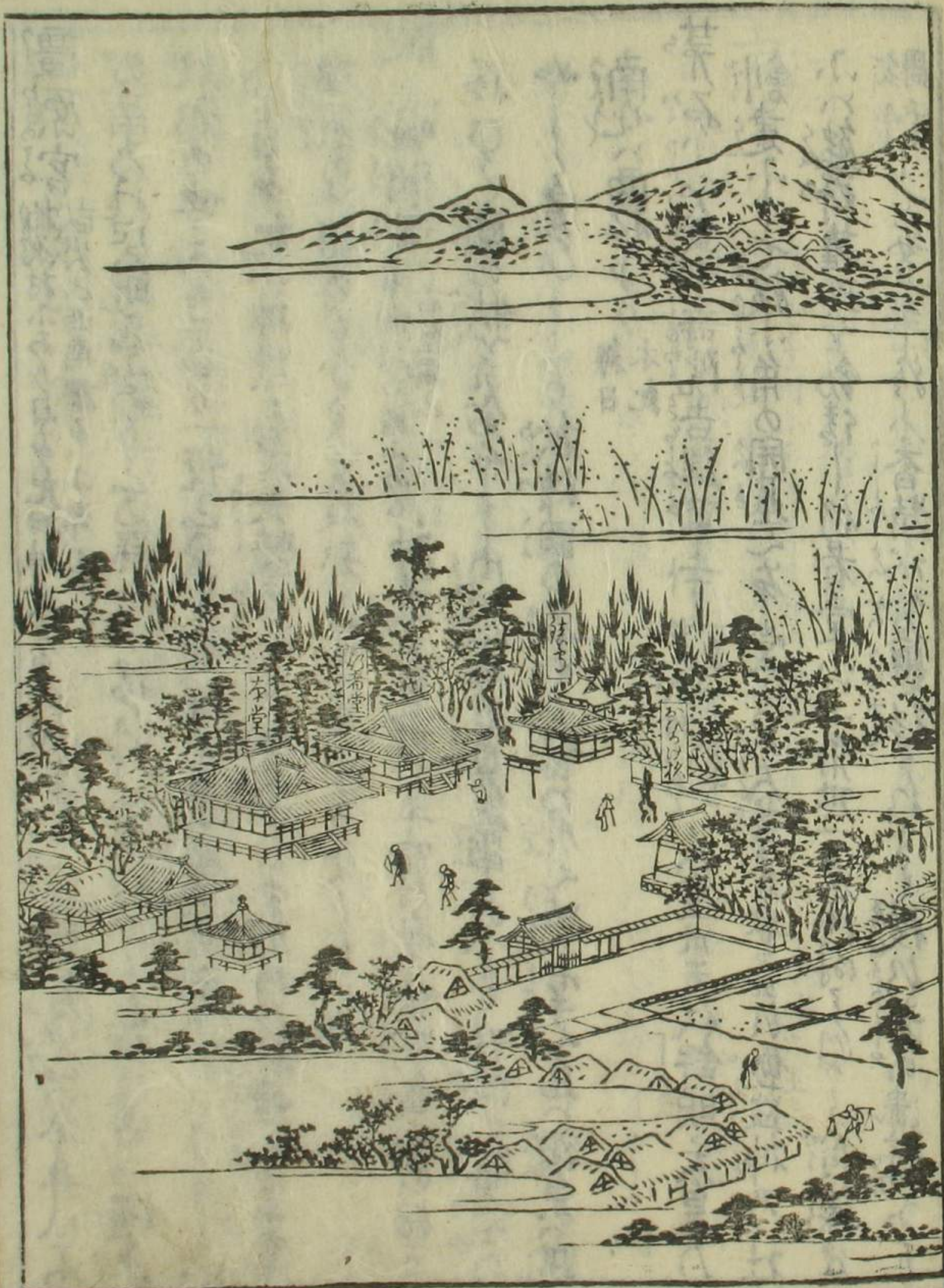


古今秘抄曰孝謙天皇の御宇大和國焉々々小傍あり彼背より少童  
あり一或時空しくる所僧歎く其志深しきなりと云ふこと  
月日を送りて愁とけしかりて次の年嘗てあり梅の枝よ  
り其影がさくけし初陽毎朝来不相還本栖と雖も其文字小写  
しつたれはあは初陽の影毎小来とてあやぐそ還け本乃栖り  
古今了答抄へ込に國  
あり山寺とあり

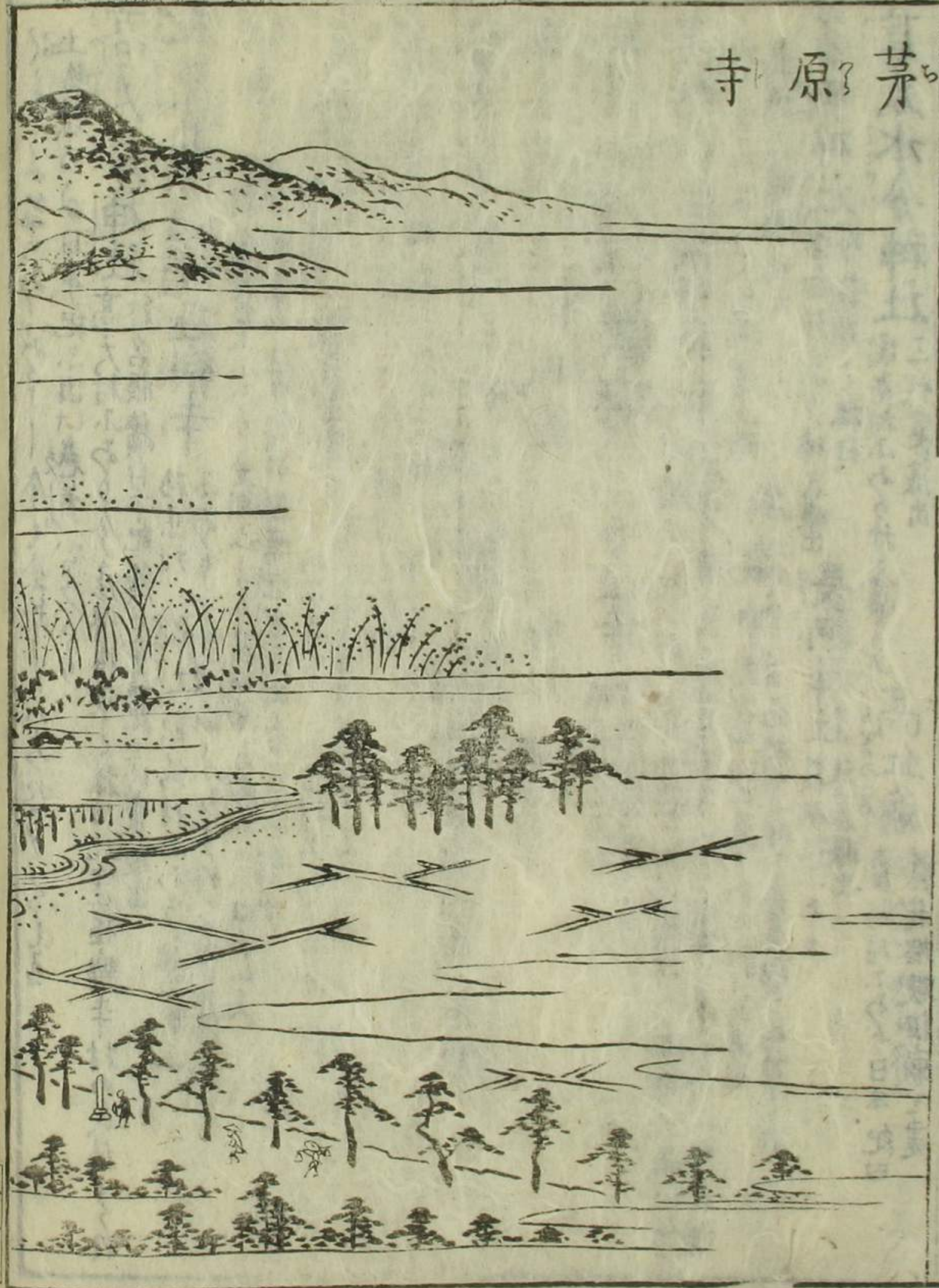
南遊紀曰曰くたの東に藤より廿町けりてさびたき小よて  
え間小至るえ間名ある所はけきまのさぐりふく郷内は後く村を多  
え間よりつたの嶺まき二十町まきつ小極多し一考の名所之  
大るり社ありる寺あり俗いとも考の初陽毎朝来と雖も  
一梅あり一折之是より吸込甚けりる嶺ありてあやぐそ折  
おほし竹葉うものまじりて又けきより大和の國中よりくも  
蜘蛛窟 俗傳いいうへは北土の地ありて中津川ありし一以勅使  
立こさるるは嶺一の嶺小築築と多ひしと云り件乃

土嶽のふみ海のありて今も余所よりありてさるりくも  
高太郎神社 高方村小あり今彦彦推現と称は北窪極樂寺村の氏神と  
松原井 北窪村小あり松原村小あり船江 船江村小あり船の形小  
朝妻 朝妻村の上小あり金剛とて其坂路を避介の小坂とて入  
葛本池 朝妻村小あり故葛本寺 又妙安とて入ち村其のり  
伏見祠 伏見村小あり今八幡宮と称は  
伏見心菩提寺 俗傳小菅村とて入は甚菩提の因基之本堂  
壺井 伏味村小あり風木村 東伏味村 櫻井 櫻井村小  
細井 神通寺村小あり其のり中位寺 福福村小あり  
高鴨阿治須岐神社 神通寺村小あり伏味村の氏神とて神名帳小及び  
あり跋曰施入大和國葛上郡 御歳神社 持田村の東小あり神名帳出  
高鴨大明神と云 長柄神社 長柄村小あり  
多田神社 今莊村と称は 高丘廟 蘇我蝦蟇祖廟と建  
葛本水分神社 三代之安派出





茅原寺









新六帖

新六帖  
春のついでに  
鳥居のついでに  
人ふあつた  
光復





巨勢野 古村村小あり巨勢とい  
里の上方小あり

巨勢のほろし桂はしりふ今かり人の許満のま群は  
坂門人足

新築 石もさ入氷もしは川上のまのま群はつむあり  
控中納言  
る重

千五百番 玉桂みよりのまもさ入ぬまの群のま群はるあり小けり  
刑部範兼

今木雙墓 大穴持神社 今木雙墓 大穴持神社  
今木雙墓 大穴持神社 今木雙墓 大穴持神社

大穴持神社 新築 大穴持神社 新築  
大穴持神社 新築 大穴持神社 新築

鴨都波八重事代主命神社 新築 鴨都波八重事代主命神社  
新築 鴨都波八重事代主命神社 新築

來迎寺 新築 來迎寺 新築  
來迎寺 新築 來迎寺 新築

戒那山 新築 戒那山 新築  
戒那山 新築 戒那山 新築

鴨口神社 新築 鴨口神社 新築  
鴨口神社 新築 鴨口神社 新築

小明原 新築 小明原 新築  
小明原 新築 小明原 新築

葛木大重神社 新築 葛木大重神社 新築  
葛木大重神社 新築 葛木大重神社 新築

吾妻祠 新築 吾妻祠 新築  
吾妻祠 新築 吾妻祠 新築

室秋津嶋宮 新築 室秋津嶋宮 新築  
室秋津嶋宮 新築 室秋津嶋宮 新築

孝昭天皇陵 新築 孝昭天皇陵 新築  
孝昭天皇陵 新築 孝昭天皇陵 新築

般余若櫻宮 新築 般余若櫻宮 新築  
般余若櫻宮 新築 般余若櫻宮 新築

阿多野 新築 阿多野 新築  
阿多野 新築 阿多野 新築

金葉 新築 金葉 新築  
金葉 新築 金葉 新築

夫木 新築 夫木 新築  
夫木 新築 夫木 新築

阿陀比賣神社 新築 阿陀比賣神社 新築  
阿陀比賣神社 新築 阿陀比賣神社 新築

龍宮窟 新築 龍宮窟 新築  
龍宮窟 新築 龍宮窟 新築



ひょうろく  
 花巻  
 女  
 女  
 女



一字抄

女  
 女  
 女

あ  
 あ  
 あ

あ  
 あ  
 あ

あ  
 あ  
 あ

修理  
 太夫  
 歌  
 本





榮山寺

小幡村あり 後優婆塞草創の地ありて元正帝の沖預養老二年夏末

武智磨の建立ありく伽藍山魏々として一年終る今僅小遺する金堂

の本尊藥師佛日光月光十二神將千百余年小恙なく今やまゝなり

よくふして金堂小儀然たり又八角堂へ武智磨の長男模倣右大臣豐成卿

の遺管して造りて其後之求聞持所の因伽井弘法大師密修終練

れ舊跡之ありり川の水流りて折流後十二町の間四時常小流りて其面

静く世の心身を無川といふ 則ち那川より常小流りて其下流りて

地幽閑ありて修禪小使あり故小高野大師のゆかりありて然泰澄等のゆかり使

こゝ小本遊のり當ちの日記小らんらんらん 大和志曰古寺ありて後末氏有家坊太政大臣

八角堂 多寶塔 伽藍神祠 鐘樓七層石浮圖僧院六宇古鐘あり 後以下小詳之

又石燈壇あり 勅曰弘安七年造之云々又古老 太平 延喜 永延 元中 應永

等の繪と日官符 數十章庫藏あり 山城國深草道澄寺の鐘あり當ち小あり 時代詳らんらん當ちの日記

道澄寺鐘銘 并序

小野道風書 見鐘銘集及深草志其有誤字傳寫誤 不少今所現在據鐘銘以訂之

道澄寺者。後三位守大納言兼右近衛大將行皇太子傳藤原朝臣。叅

議左大辯從四位上兼行勘解由長官播磨權守橘朝臣。為報四恩濟

六趣。合誠勸力。躬建立也。堂宇比莞南北輪象尊像接座前後跣跂。兩

相公。宿殖香火之縁。生為瓜葛之戚。非唯現世結契闊之情。亦欲淨刹

共安養之樂。故各取其名首字以為此寺額。題所以貽本縁於來代期

同志於他生也。藤亞相。爰命鳥匠。乃鑄鴻鐘。且將令長夜昏迷。聞妙聲

而知曉。苦海沉溺。驚梵叫而通津。延喜七年十一月三日銘之。其詞云

佀師施治

菩提催縁

虛受必應

響萬自傳

後夕至曉

出定入禪

傍唱衆聖

遙警大仙

法喜增感

耶夢驚眠

通阿鼻獄

達有頂天

却數億萬

妄界三千

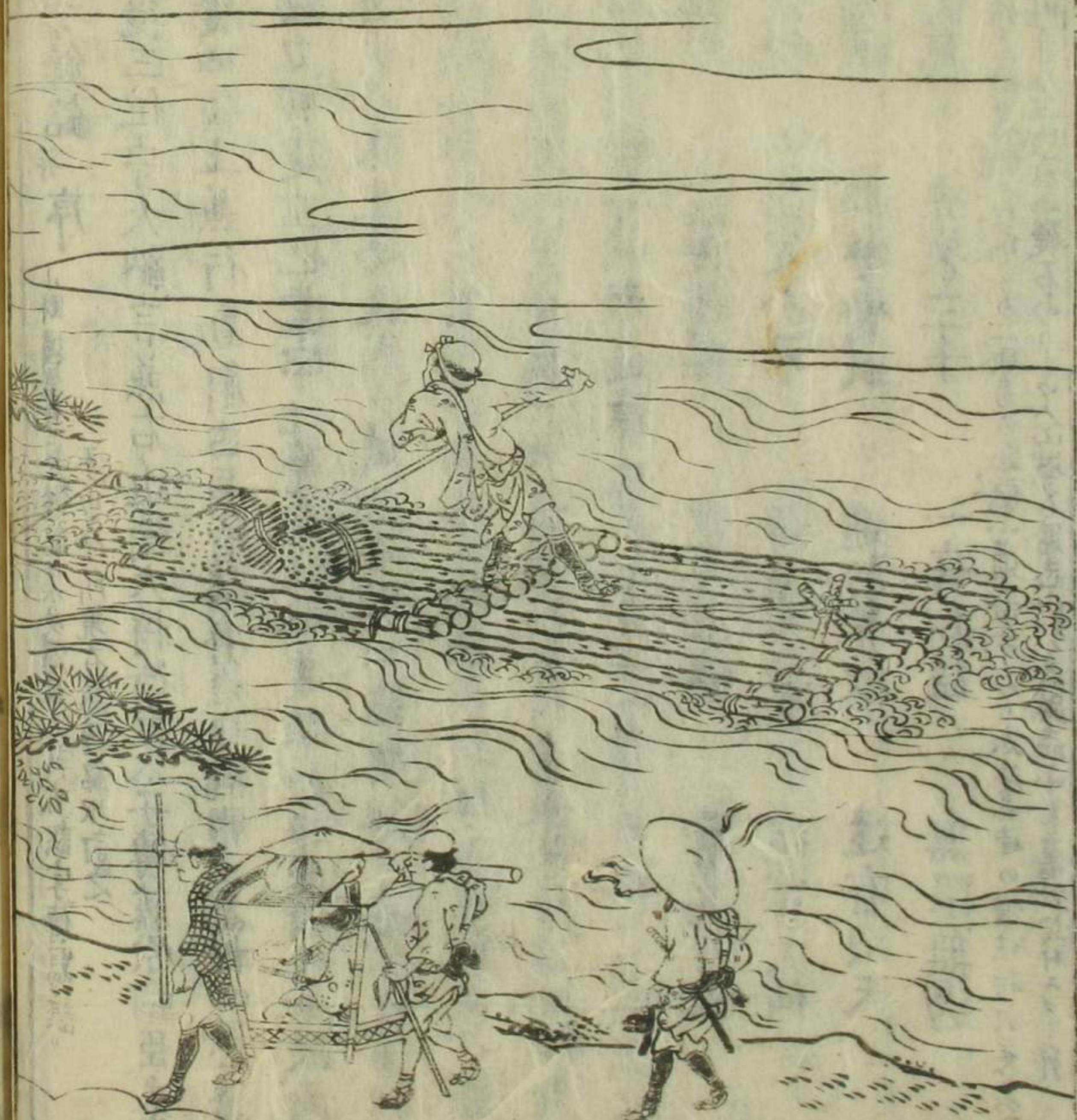
一音利益

無限無邊

道澄寺の鐘銘は深草志にありて二所ありて道澄寺あり今深草志の僧住持は是也 遺跡之舊址は此より三町あり礎石ありり山城名勝志山列名跡志小に舊址と詳らんらん



深き川のあり  
 まるく川に  
 宇智川  
 具みか  
 えり  
 くれ小和須川  
 経くこ在る遠り  
 宇智川  
 右中川入





後阿陀墓 小浜村東の北小あり 勝大政大臣正一位後末武智麻呂の墓之

藤原長岡宅址 小浜村小あり内麻呂の首六つ大同年中のらしめ左境内古討し

宇野親治宅址 宇野村小あり保元朝信に日大和國宇野七希親治が新院ハ

龍池神祠 在村小あり宇野 庶人墓 在村の上方小あり

月見寺 在村 王墓 須川村小あり由緒 櫓井 迫内村

鳳凰寺 小和村 高天岸野神社 北村小あり若所母助天と称れ

一尾背神社 北村小あり分社 宮荒露靈神社 今雷社と称れ

観音寺 岡村 荒木神社 今井村荒木坂の北の南あり今大社と称れ

宇智神社 今國生明神と称れ境内小安生あり

矢田白田笠 又條村より八町ひう今井村小あり一振井武若所成とて人

人々あるまると小勅使と云らるるをさあひく流小神靈明神と云らるる

御霊神祠 共小氏神と云れ 井上皇后他戸親王の神憤つらく世乃

本社 中央御霊井上皇后北早良親王 本地堂 唯服親名聖親者千の親者如意傷

靈安寺 正長えひの秋兵火小あり今井村小あり再興祿光院の所宇

良峯寺 長安村 丹生川 在源若所郡加名生谷より丹生川小入

丹生川神社 丹生村小あり今井神靈と云れ 吉祥院 生村小あり正堂

宇智陵 大和國宇智郡小あり今井神靈と云れ 延喜式曰皇位井上内親王

火雷神社 御心村小あり今 二見城 八條村の南若所門岩小あり

あま川 舊名見洲川今源若所編より上村小あり 瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人

瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人

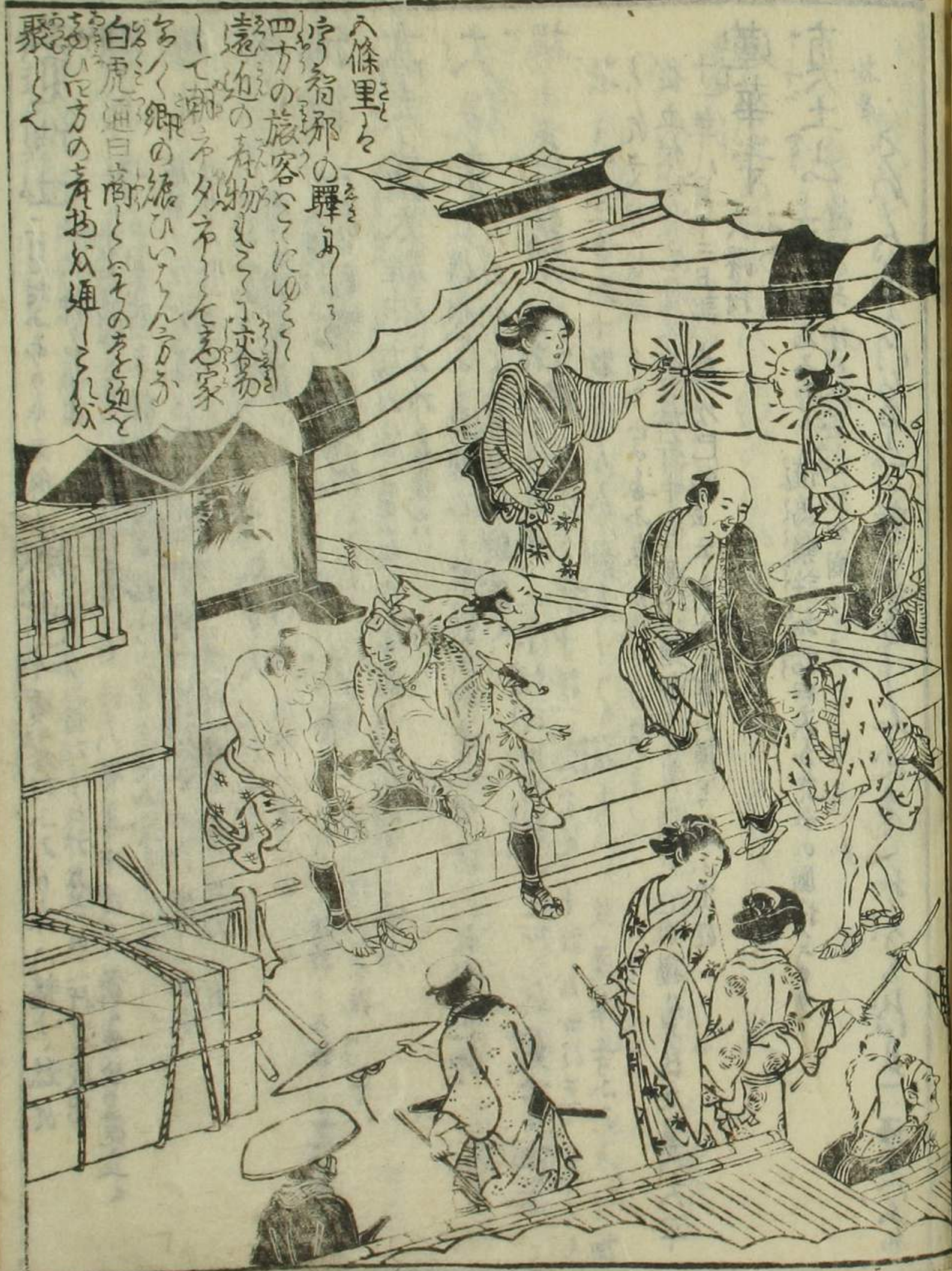
瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人

瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人

瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人

瀬川 在の中いふとやまといふと川みよと物とそ者ありける 漢人





八條里  
 序 宿那の驛  
 四方の旅客  
 遠近の荷物  
 して 朝 夕 夕 夕  
 ちく 御の 旅  
 白虎 通 日 商  
 聚



大名の  
 孫  
 許



二見神社

二見村あり今兩解と統神祠須賀村あり今八幡と稱は

櫻井寺

須賀村あり須賀の神宮あり今大曆年中武者所之屋成り建立之

櫻井

櫻井寺の傍あり中村聖神祠下中村あり所置と稱は

安井寺

下村あり當寺の付甚小上村城牧師入道居城と稱は

神福山

大澤村あり金剛と云り後大澤川あり大澤村より出り先列の

高太左太雄神社

神福山の山嶺あり俗小太左太雄と稱は

大澤寺

大澤村あり神福山の山嶺あり今澤寺堂一字境内に琵琶池

楊貴寺

大澤村あり享保十二年村民田を耕ふを以て地を堀出

蓮華寺

大澤村あり蓮華寺あり今蓮華寺あり什物

真土山

上地村のあり馬樂註和抄曰大和記の園境あり

大和記の園境あり... 大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

新古今

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

太上天皇

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

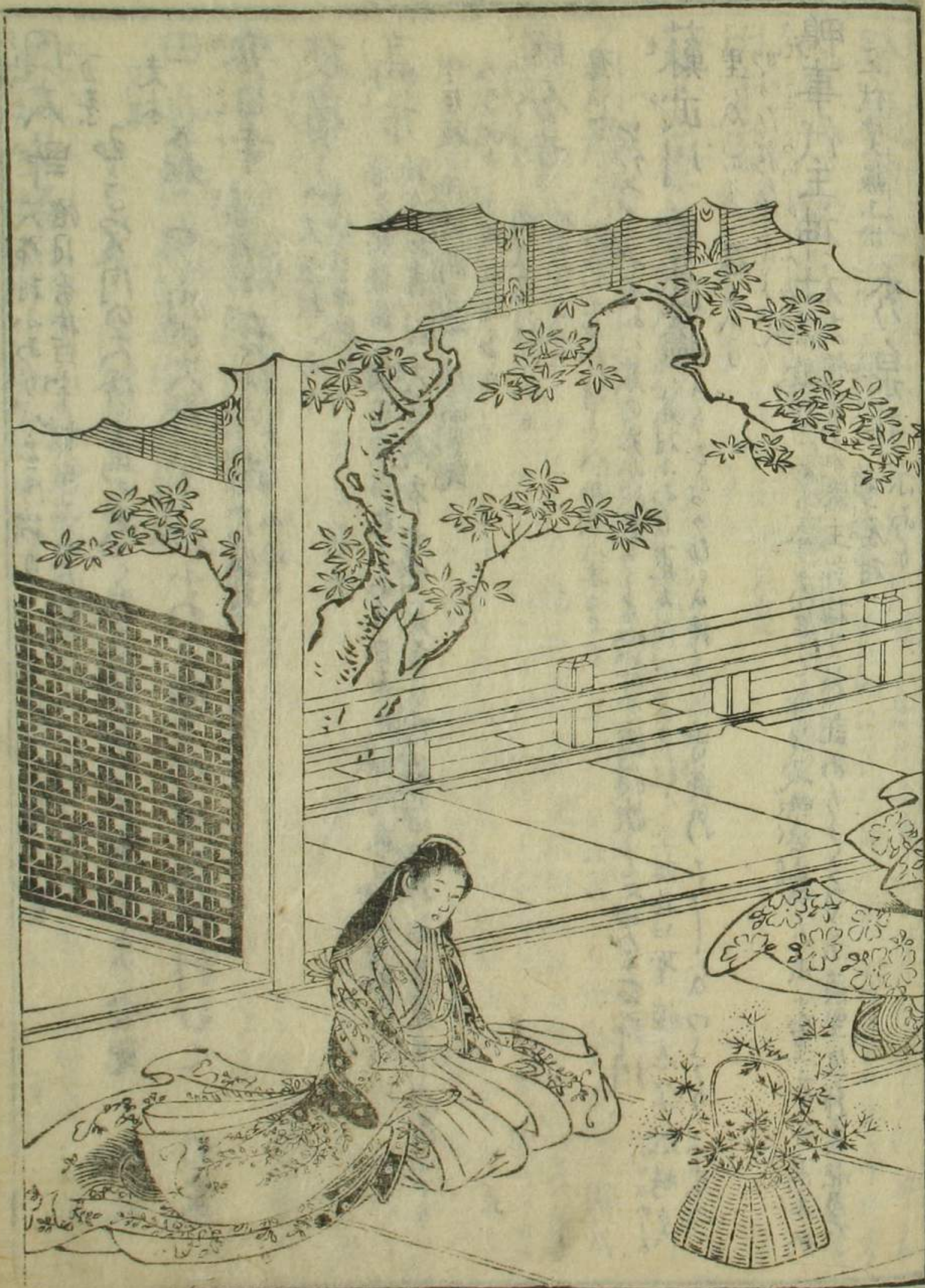
大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...

大和記の園境あり... 大和記の園境あり...









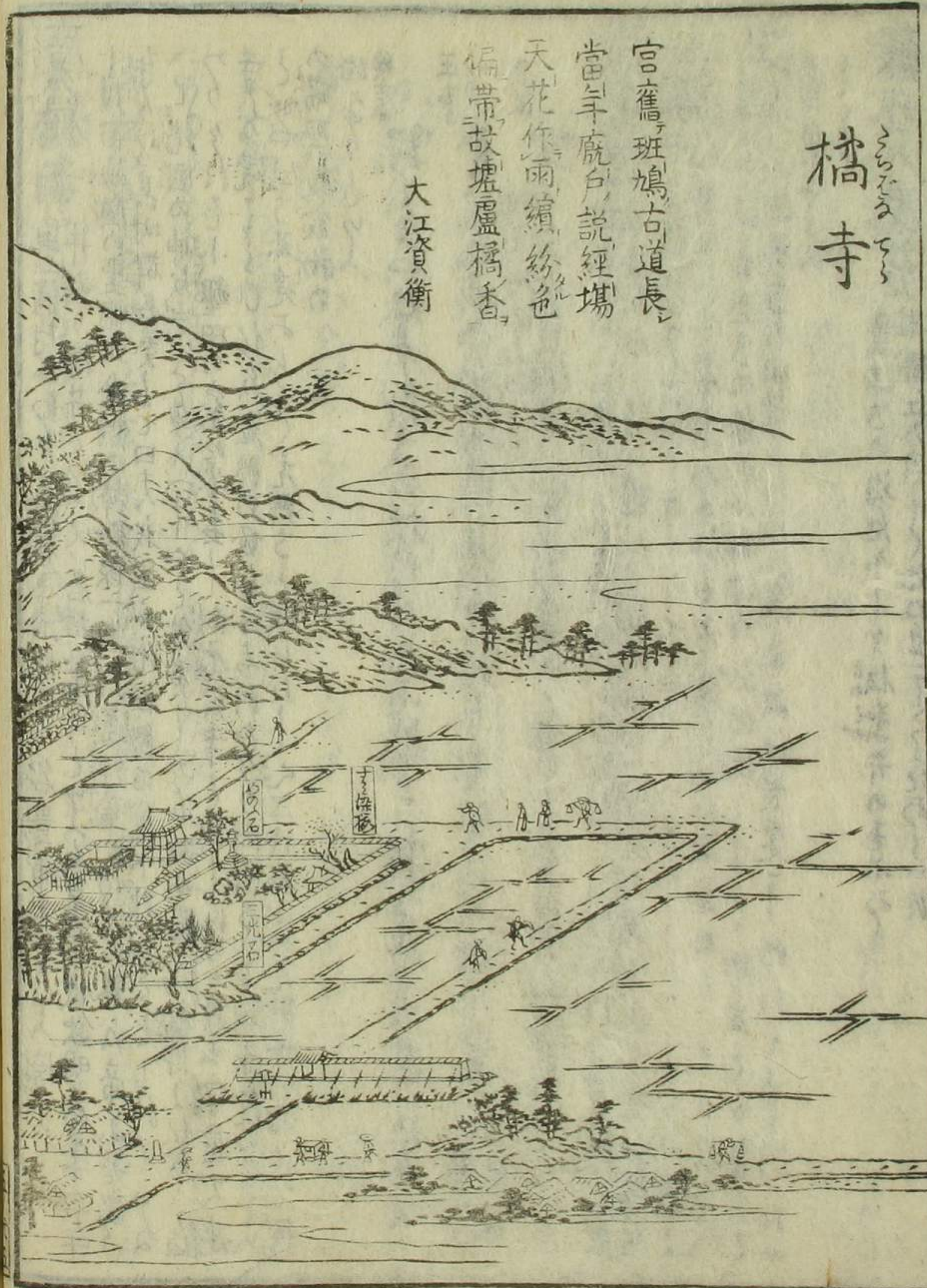






橋寺

宮舊班鳩古道長  
當年麻戶說經場  
天花作雨續紛色  
偏帶故墟廬橋香  
大江資衡



寺寂

之世橋小

むりの

湘夕









昔提子縁起曰

橘子の為方より  
金糸の遊むい來  
下く清堂の柱に  
那うちゆめとあり  
志をりて飛さり  
千のたかみんれた  
一首の和をと冷  
付より

新古今

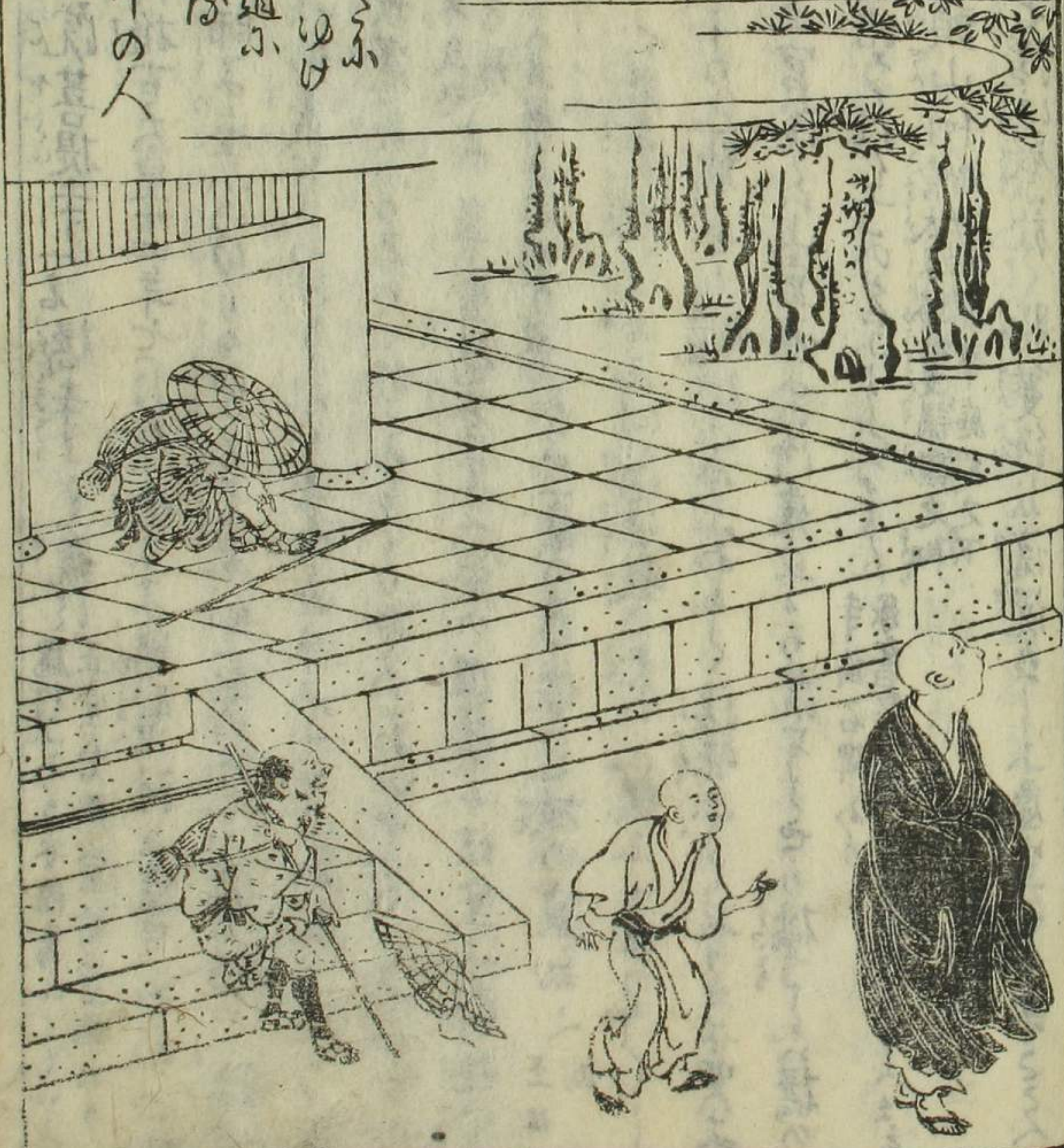
昔提子の謙堂れ  
くらしにむくひ  
くの奇

ある人ある時にふ

梅木の道ふ

はとへば

世中の人





佛頭の上宮院菩提寺

一名橋寺

橋村あり安倍島あり正堂今御堂僧舎二區あり

人皇三十四代推古天皇十四年七月聖德太子勝鬘經を講せしを始とし

塵尾宮より師子座小のぼりありしを御家のゆくをせしは諸の

名僧大德其妙義を講じしを御家のゆくをせしは諸の

儀とての疾運をたつたてて地ふみたり其のたつたてて二二

ありと云々 平氏傳 本尊聖德太子十六歳の遺像を法堂上人の佛と

けり 上人の久我殿息持明院殿の 太子二歳の尊像を日域の最初之

佛頭とて六勝鬘經講舎の時清涼殿の景の二頭小千佛の御く

出現ありしより心號とせり 王林 けり太子ありし清涼殿とてより三十四人は

そのり又上宮院と上宮をの御建立より院号とせり橋寺とい橋の

郊の皇居の地るしむちの名ふりしるるん 寺前石碑あり

其銘曰 佛頭山 上宮太子勝鬘講讀之 塚 毎百歩法大師一丈餘の碑立あり

當の塚起 太子御勅して清涼殿に於て勝鬘經を講説しし小虛室なる樂こころ

異香四方小花浮きりし小千佛の面影光明赫奕として現しとあり

太子奇異のありしを御感仰せりふく別け所小東西八町南北六

町金堂講堂今堂五重塔涅槃鐘樓中門也門六十六軒の僧坊覺

かみけた我朝第一の伽藍に建營しめ人を太子曰日本の靈寶とて足

るりけ宗一及歩りしとてふ歩極樂に仕せんと清涼宮二首あり

佛出づる内場の有けるふをた國とて名ふるん あり

有るべきのありし地小落てとありとんとる橋乃ち あり

畝割塚 太子七歳の時四百餘國より諸國人を御招きありし寺塚に建營

二百六十歩小割せし人十分一とて十六塚あり 太子御田畑

今ありしとて畝割塚と号し畝割の入りありしとて勝鬘經講讀の御

塚とてありしとて新に埋めしゆに遷した塚といふ又同寺三六

毎日を示しめ人を奉りし毎日のことあり

春井 けり太子ありしとてこの井あり是太子御誕生の名とていふ春井あり

古鐘

勅曰建治四年泉列大鳥郡

石燈壇

時代不詳古代の相形あり



拾茲抄曰菩提又橋と號して號は志度の道場上西海人々を建たせり此の  
八重抄抄曰勅撰の所なりとに橋の内に園と云ふあり小班鳩宮の古道なり  
ありありと云ふなり

班鳩の宮に古道なるあり橋寺の花乃下風

性靈集曰淳和帝の御宇に故中務卿親王の御存にせし御母は春日月邊照兩士  
女所建立するに小金文の蓮葉法曼陀羅書寫の功ありありと云ふなり  
四年九月に橋を築ち小宮ありと云ふなり

既坂 所不洋應神天皇十五年八月百餘國より渡り馬二匹の坂あり  
既坂 直岐といふ人々に綱をひたり馬を牽き入る所を既坂といふ  
既坂宮 舒明帝の御宇に既坂比 所不洋日本紀に云ふなりと云ふなり

神名備 神岳真神原 淺小竹原 素盞翁尊  
王業 了んて其のいひゆりて候ふなり神と云ふなりと云ふなり

飛鳥坐神社 飛鳥村あり神名此出四座合殿小同五十餘竈又酒殿漏村の  
ありありと云ふなり

本社四座 事代主神 高照光神 中社二座 素盞翁尊  
大己貴神

奥社二座 天照太神宮 末社 八十座

飛鳥井 社名 備馬樂曰 飛鳥井にやと云ふなり

板蓋宮 飛鳥村あり神名此出四座合殿小同五十餘竈又酒殿漏村の  
ありありと云ふなり

飛鳥寺 飛鳥村あり神名此出四座合殿小同五十餘竈又酒殿漏村の  
ありありと云ふなり

一名元興寺と號して靈龜二年平城元承小のり以藍筋の聖徳太子  
守るに退治のり神を願ふなり十七歳の神時建管一人之本尊を  
釋迦太子の尊像鞍作を佛師の徳之初に造仏のり高麗國大興王

つゝ人々のいふに金二百兩を献ぎて遂に佛成終るなり光緒曰 推古天皇  
乙巳四月八日戊辰以綱一萬三千貳百斤金七百五十九兩 初位の高麗蘇の慧意百餘  
敬造釋迦太子像銅繡並使侍等云々

の慧聰けを解くに於て安居しり人々安居院といふなり後齊明天皇  
二年須弥の形なすのありて蓋園盆會あり 日本紀に云ふなり是  
本朝蓋園盆會なり

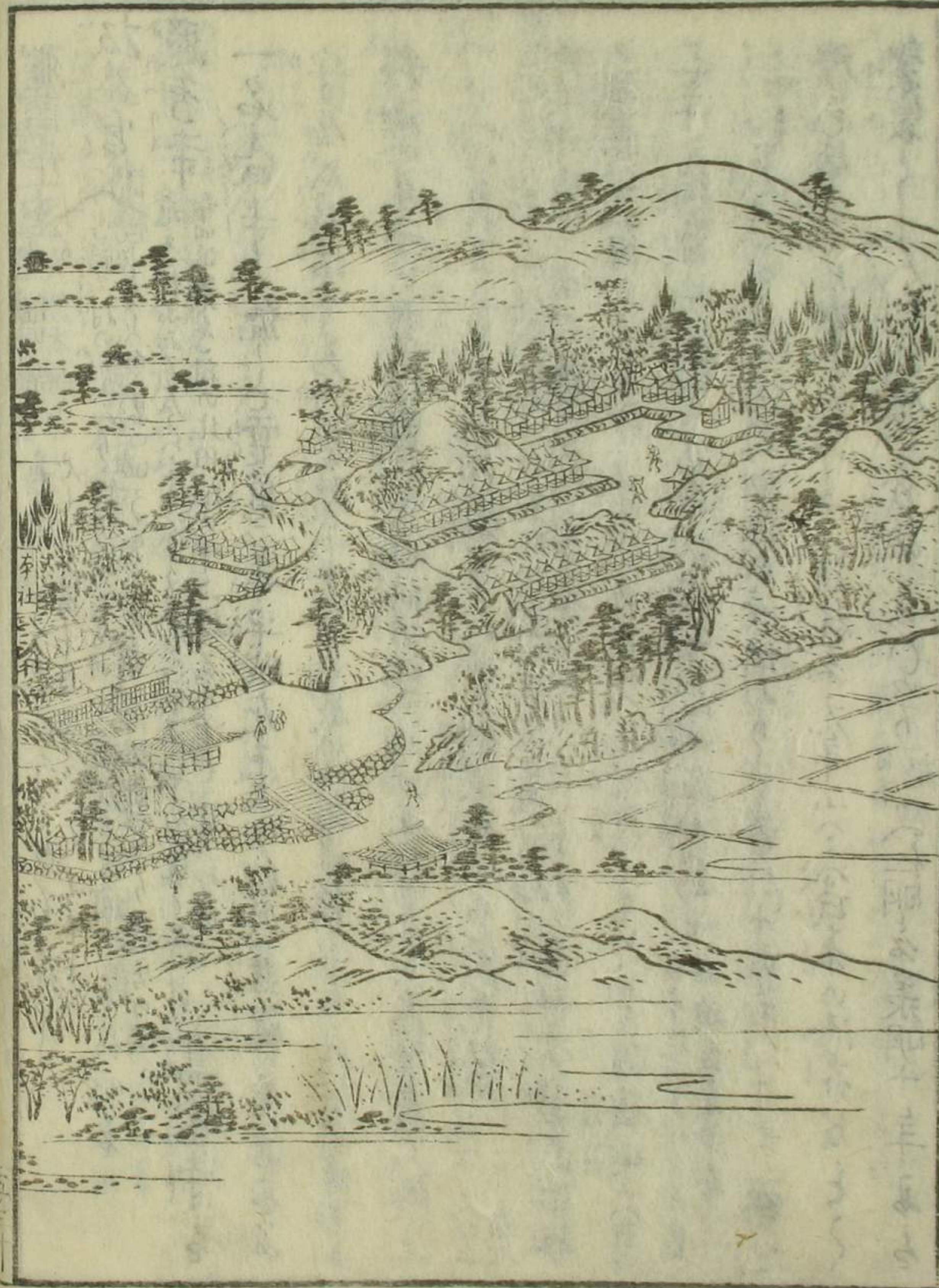
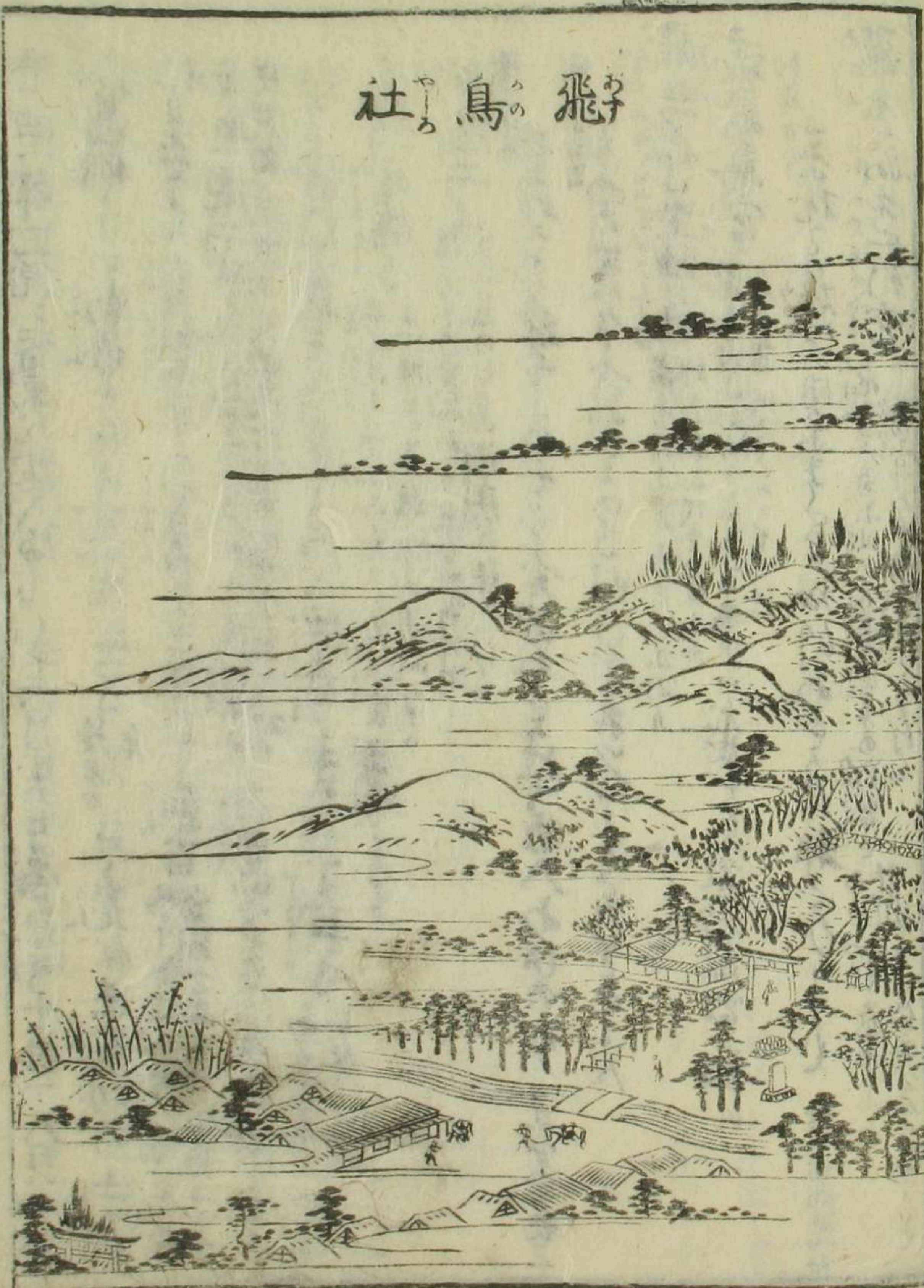
禮あはしく珍寶を献ぐなり持統天皇九年小のり武承の御宇に  
加賀家より人別小領なりと云ふなり

日本

仁明天皇承明十年甲子



飛鳥の社





燈油一斛正税二百束は越入ゆりして二月十五日萬花會十月十八日下燈

今盧樹として勅修とてその宮下は給りて後日本是は法寂初乃寺

竹とてより貞觀四年の官有小事をせり此寺佛法元興之場聖教和銅三年

帝都遷平城之日詰寺隨後件寺獨留朝廷住昔四方の内毎一額あり

更造新寺備其不移回所謂本元興寺是也格ひぐりの内小飛をち小一の内小法貞寺の内小元興寺

北の門法備寺今飛を村小あり真字の道場とあり

安居井橋より良あり其泉ありて俗之入麻の塚とて

後後拾巻そるぬりり終々てそるぬりのあそられちの入あひの聲 式宮明親王

飛鳥山口坐神社飛を村上方多形とふあり

去遠飛鳥宮飛を村小あり今事記曰允恭天皇遠飛鳥宮小坐に

飛をの海をこけ宮今飛を村小あり荒墳飛を村小あり

飛を川あつちの源細の山中よりかへり細川とて細川とて

世の中らふらふる飛を川とてあはれちそるぬりり

淵をたふらふる飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

淵をたふらふる飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

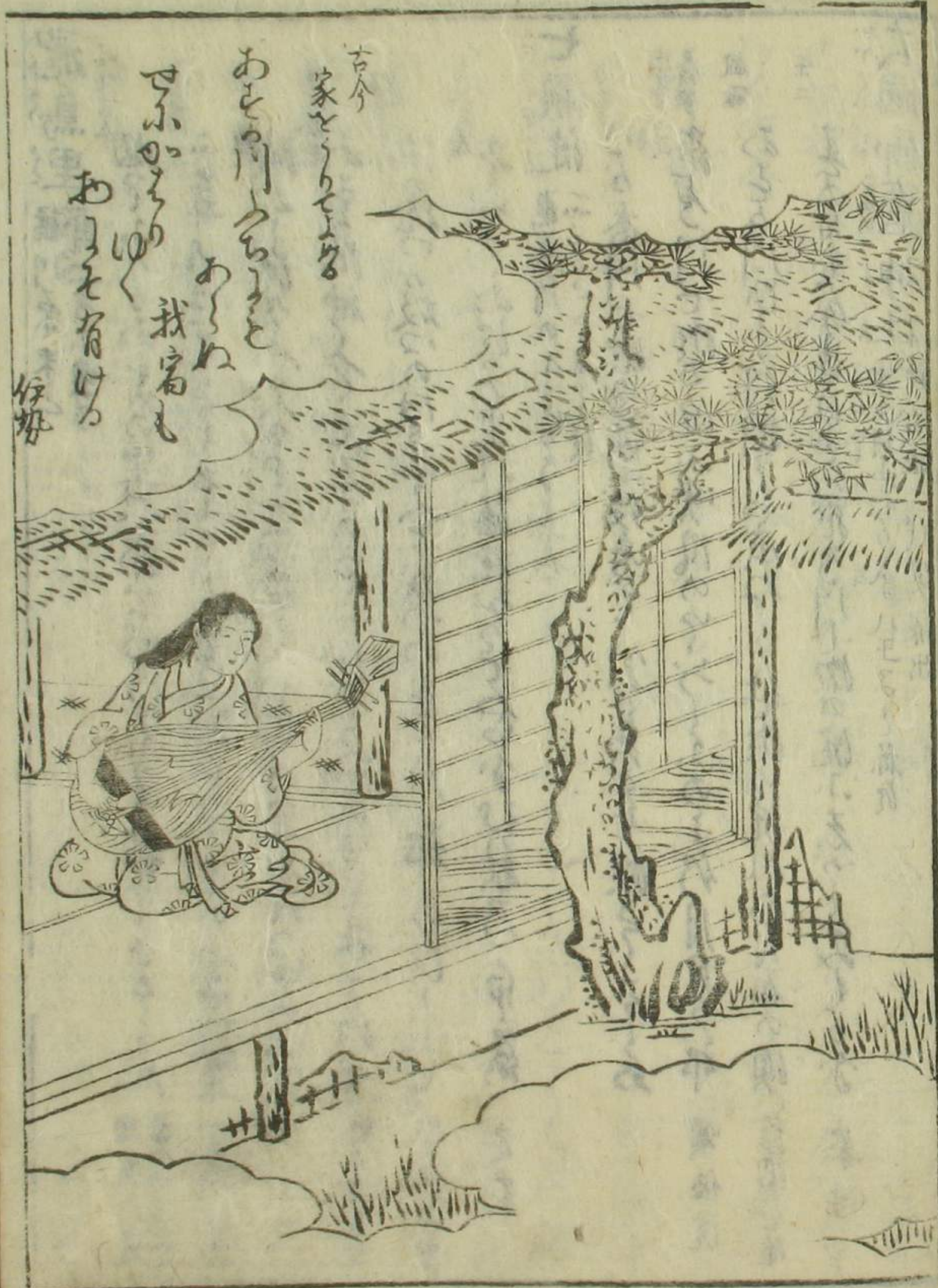
飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり

飛を川とてあはれちそるぬりり











栖す輕かろとらふ人勅令せ  
 うけ雷かみなりなどとへんを  
 阿那あなとあつて人趨きす



天文指南云  
 雷かみなりと陽氣やうきに  
 あつて火氣かき属ぞく  
 ばまふは地氣ちき  
 上うり升のぼる時ときは日ひ  
 必かならずて天頂てんていに迎むか  
 つかひて候まうす  
 熱あつとるは時ときと雷かみなりあり其その  
 勢いきほひい猛まうく相逼あひつして搏激はつげき  
 ぶる竅あなを張ひり破やぶて或あるは縋す  
 と懸かり如ごとく鼓つづみを鳴なす  
 聲こゑなるは如ごとく

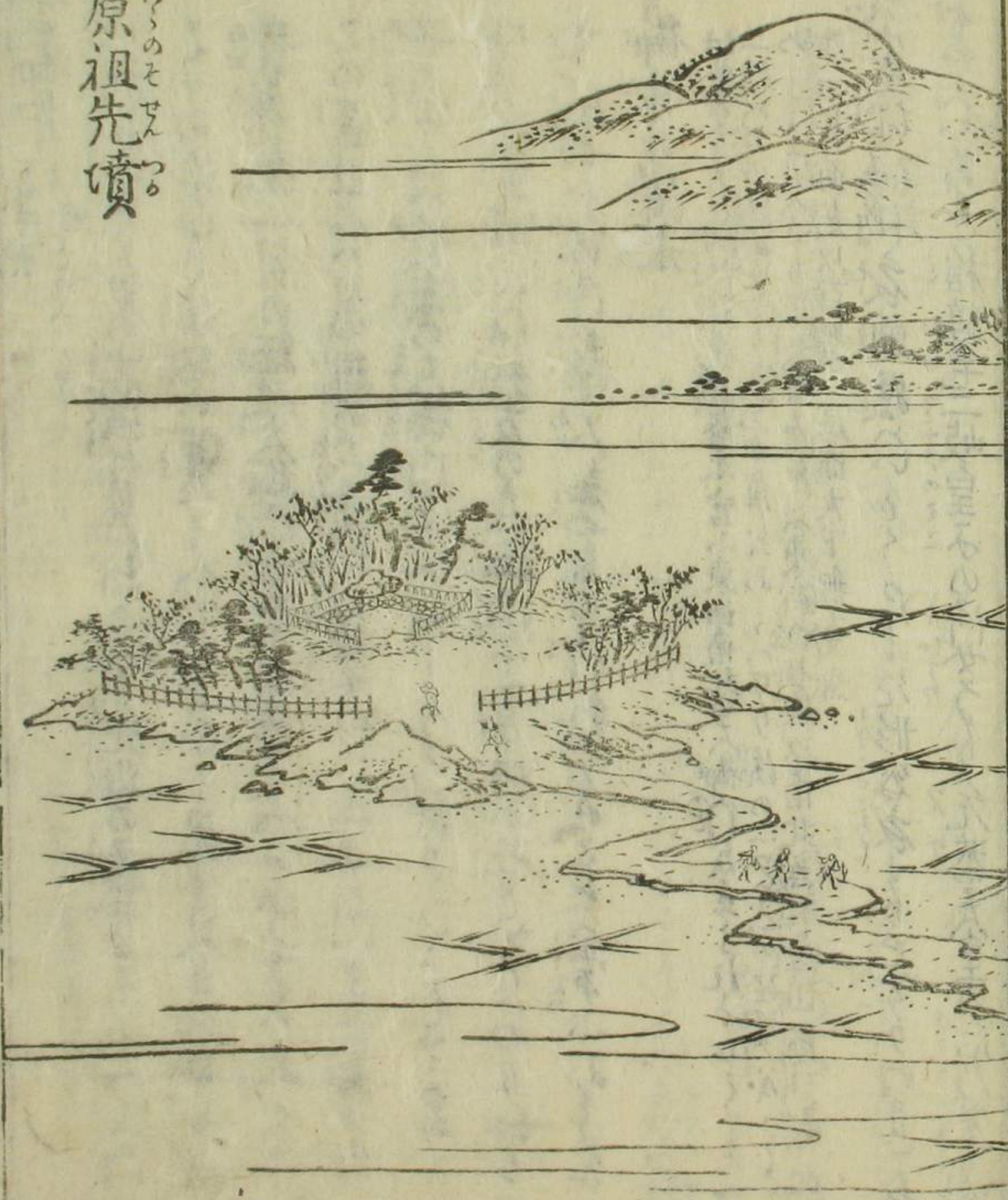




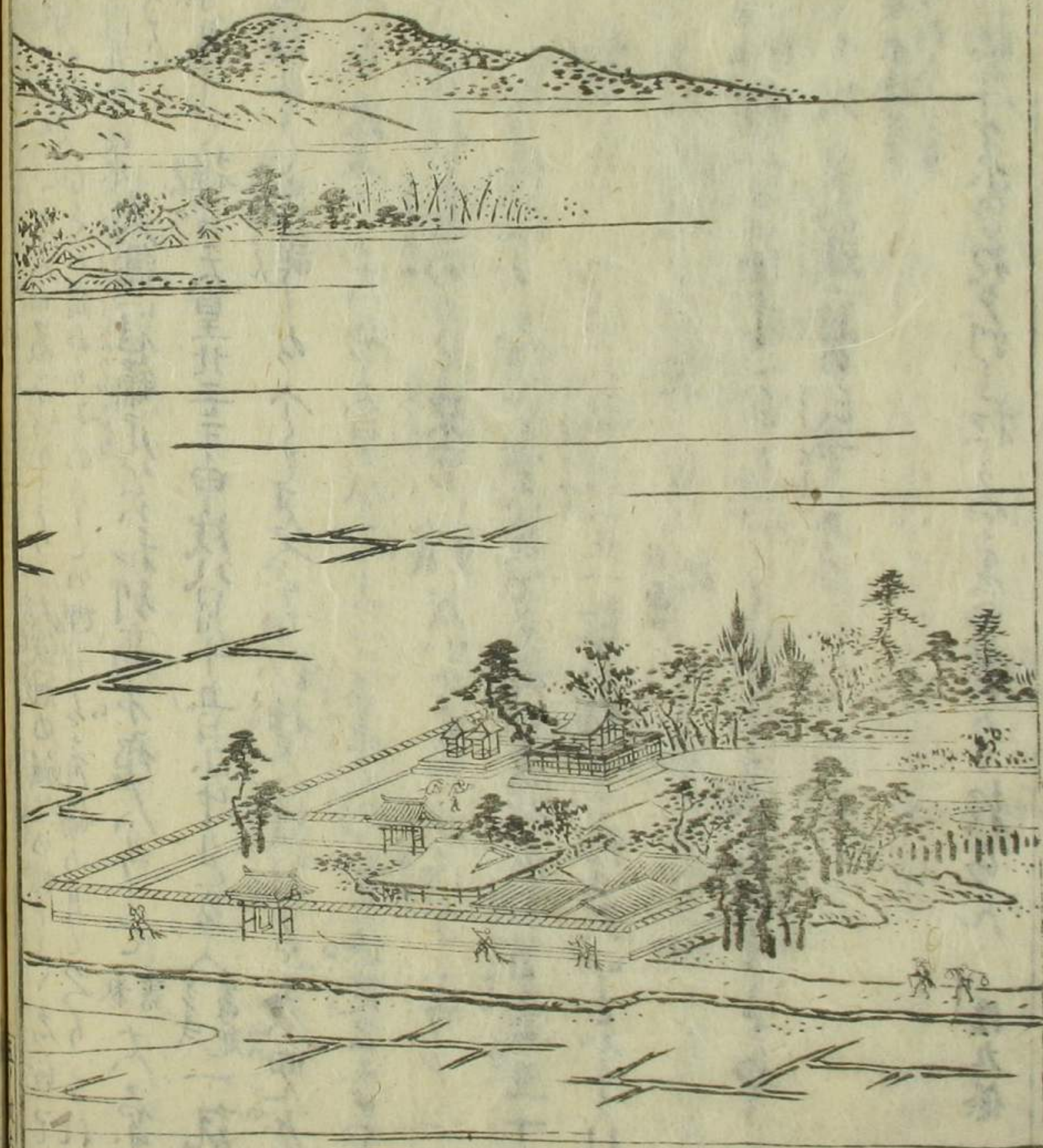




藤原祖先墳



大織冠社

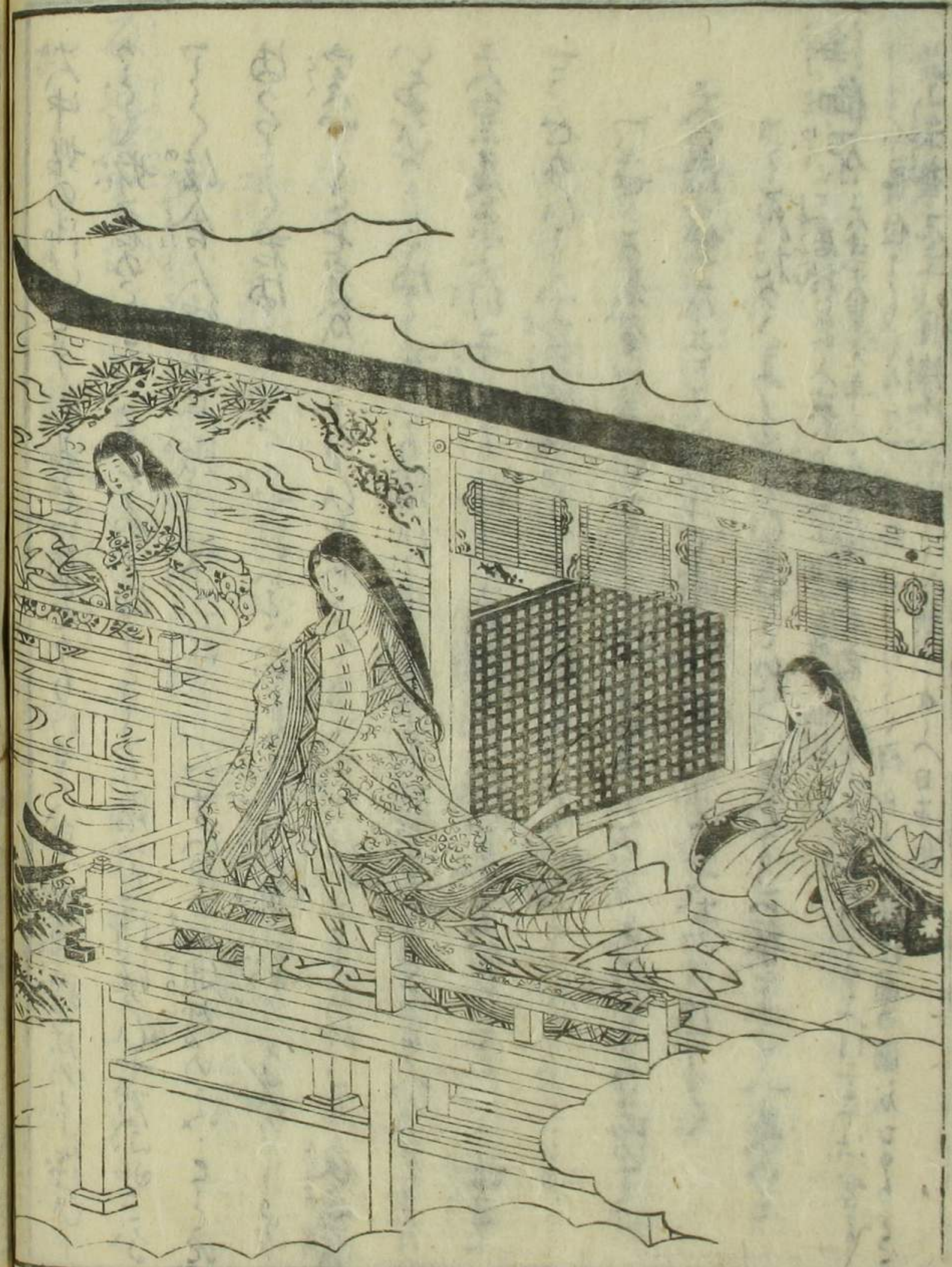
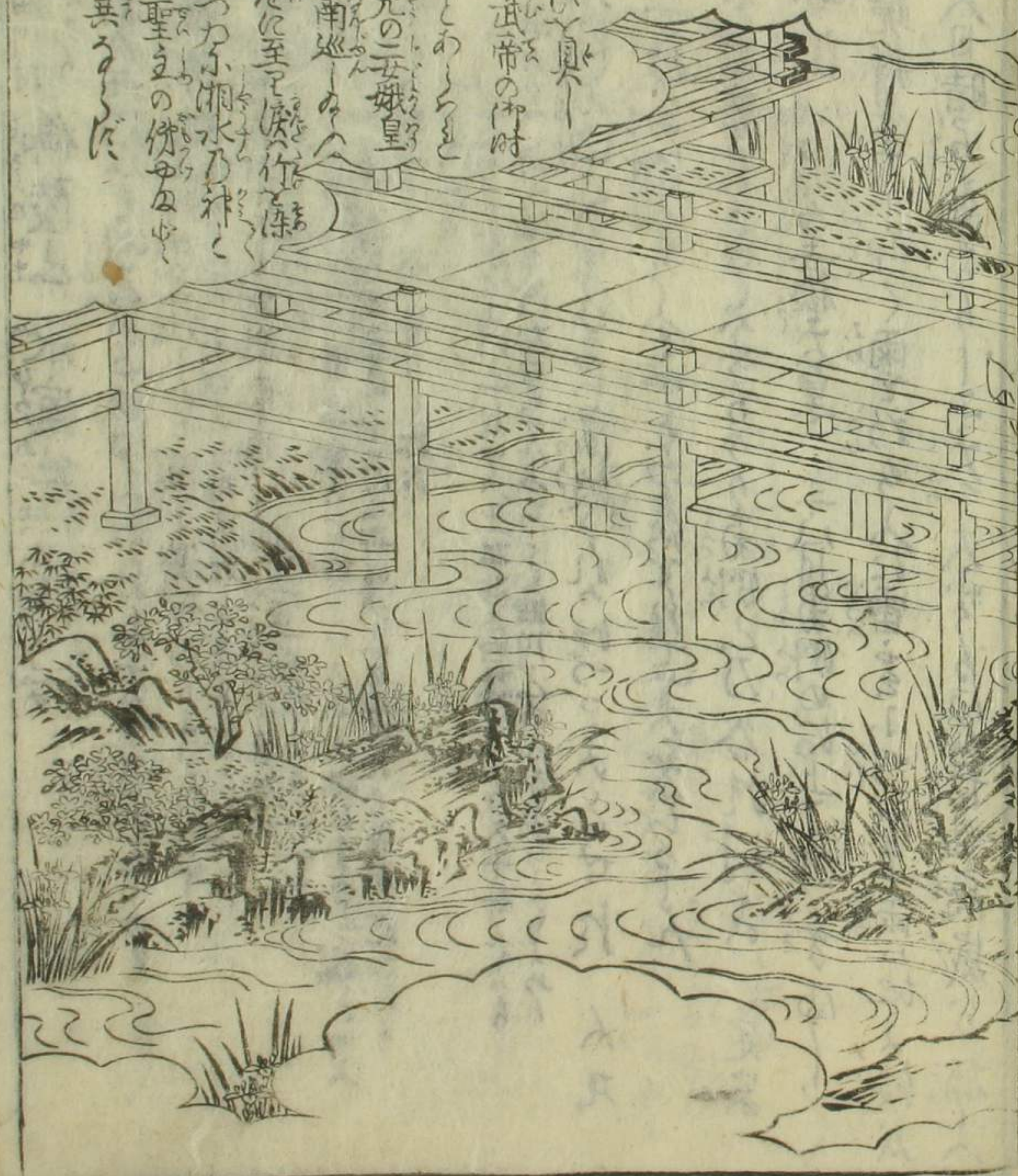








元恭帝の  
 皇妃にあらはれし  
 衣通媛を聖武帝の時  
 玉津の明神とあはれし  
 舜帝の死光の二女娥皇  
 女英と名を南巡の舟へ  
 と慕ひ洞を至りて涙を流  
 斑竹と名なりつゝかゝる湘水乃神と  
 るといふも聖皇の傍ゆゑ  
 のろこも異るべし





細川村 御陵山 氷室址 共小細川

氣都和既神社 上村茂古杜あり傍に瀑布あり

浅茅原 小曾根村あり桃樹繁殖 氷室址 小曾根の

清谷岡陵 舒明帝清谷岡に葬り其後押吸内山に遷れ日本紀あり

大仁保祠 入谷村あり今春日と称す

南後山 細川とのうへの上れ山なり王林抄小日根より八十町をり

男淵女淵 細川あり皇極天皇元年八月南淵の山より奇跡あり

四方の跪拜 天小御と雨を祈り人雷を小作候雨は地は彼は

日本 足跡元朝方拜の基あり

加夜奈留義人命神社 栢森村あり今葛林と

金剛寺 吸田村あり推古天皇十三年南淵

飛鳥川上坐宇須多岐比賣人命神社 稲刈村あり今宇佐宮と称す

南淵先生墓 稲刈村あり今明神塚と云ふ

龍福寺 稲刈村あり境内小竹朝長

吳津孫神社 神名無し

勾沈 島並村あり 真名石沈 勅撰名所

鳴宮 勅撰名所

鳴宮のほかに沈あり

鳴宮の宮あり

定家

都塚 吸田村あり

田麻呂第宅 口所あり

大宰帥宇合の五子

舎人

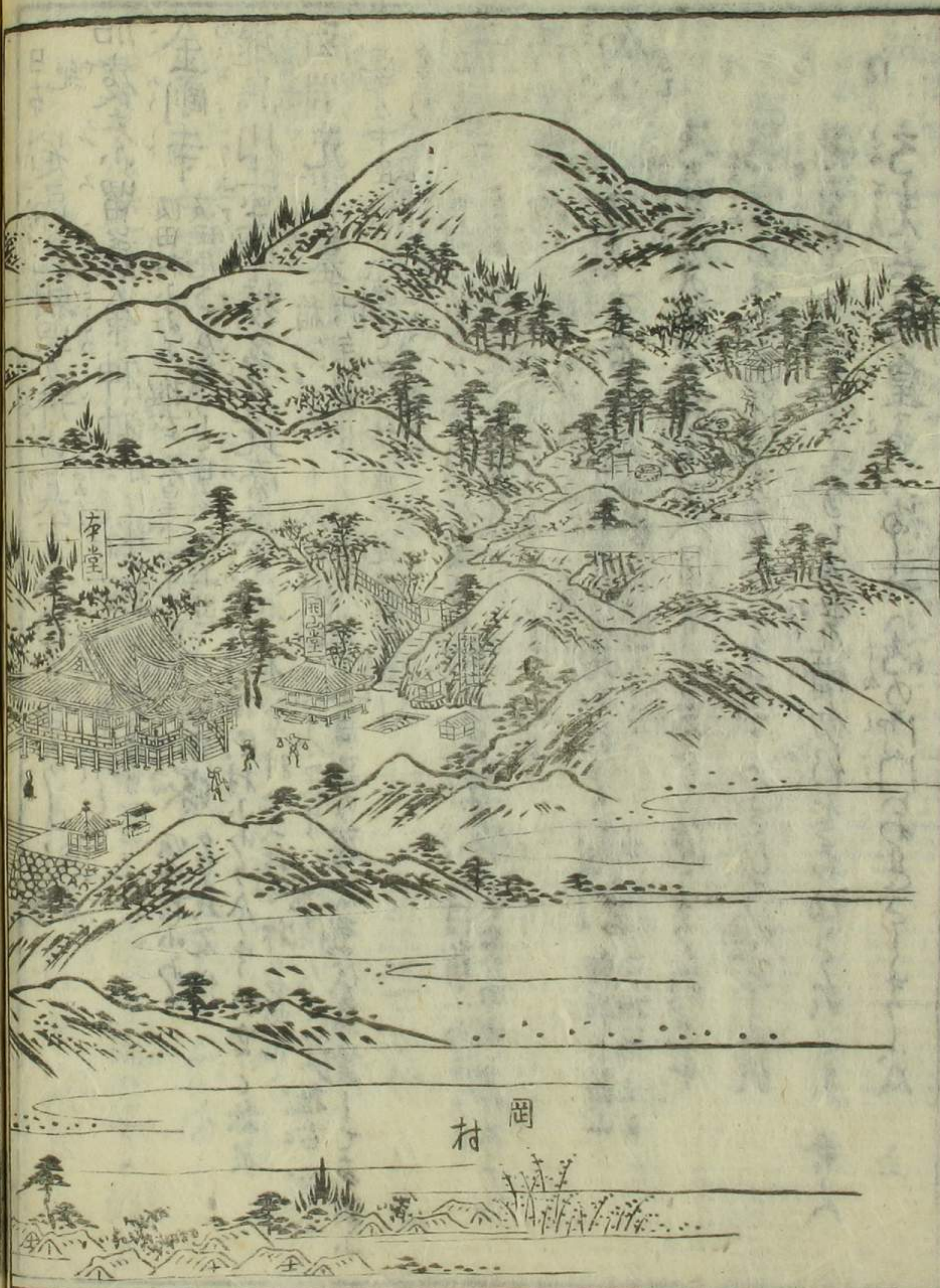
全



岡寺



方丈



本堂

岡寺

岡村



東光とうこう龍蓋寺りゅうがいじ一名岡寺おかじ 舒明天皇の皇居岡村の大智天皇の御願

義例僧正ぎれいそうじの因基いんきあり 西國第七番の義例僧正ぎれいそうじの童乃どうの時とき大智天皇

いづれにみまうして只皇太子みまうしてと同しく岡本宮おかもとみやありて成長せいじやう多し出家しゅっけ

龍蓋寺りゅうがいじ龍福寺りゅうふくじの造營ぞうえい一入寶二年にっしやうに僧正そうじ小任こにん神龜五年かむいご

十月じゅうがつ入寂にっじやくの禮部らいぶ小勅せうてう一喪事さうじを監護かんごさせ給ひぬ 釋

本尊ほんそん如意輪觀世音にぎいりんくわんぜいおんありけ佛胸ぶつちゆう小籠せうろうらしし小佛せうぶつの孝謙かうけん天皇の御命みこと

持佛ぢぶつありて唐土たうど松智首君しょうちしゆきみの化け一探たん半二臂はんにべい如意輪にぎいりん人身じんしん除厄じゆあつの觀くわん

より中興ちゆうきやう弘法こうぼう大師だいしの國くにの土つちなりて又また二臂にべいの像ざうなりけの小佛せうぶつは佛

胸ちゆうに収おさめり入寂にっじやくの道鏡だうきやうけし小任せうにんありし時とき松智首君しょうちしゆきみの命いのち小

むれた害がいせしとんとんのなまじと述ゆのひく龍蓋りゅうがい寺じ入寂にっじやくの林はやし小任せうにんの道鏡だうきやうけし

是秋こゝろ松智首君しょうちしゆきみが厄やく災さい小任せうにんの卦くわありて如意輪にぎいりんの化けなりしと今いまと歸

令たま佛ぶつは便べんりて其その難なんを免まぬ了りやう道鏡だうきやうけし像ざうなりて清きよく孝謙かうけん天皇てんがうなり

其その後のち加蓋かがいの造立ぞうたつ一の尊像そんざうが安やすちしし月初げつご初つひ日にち天皇てんがうの御願みこと

ふく藤原ふじわらの式しきあり又また拾苴しゅうそ抄しやう曰いは丈六じやうろくの土佛つちぶつは予よ削法せうぼう天皇てんがうの造立ぞうたつありてそ

より火ひ火か上かみがしと我われら々々たり又また除厄じゆあつの身み像ざうのううも鏡きやうにあ

けり奥院おくいんの靈れいあり弘法こうぼう大師だいし龍神りゆうじんの行ゆきを給たまひしと勿な忽とは泉いづみ洋やう々

として溢あふ出でせり諸人しよじんをば吞のみ厄疾やくしやくの病びやうを

後園こうえん 純登修白高市郡冠波の劔池のわらわ小林の苑中より入撰集鈿通要

わらわの信しん用ようせしとんとんのううり注要しゆよう抄しやう曰いは橋はしの良よし十じゆ余よ所しよより小原せうげん

わらわの聖德せいとく天皇てんがうを十二歳じふにさいありて童子どうじ連れん二十六人にじゅうろくにんを誘引しゆういんして後園こうえん

わらわの詩賦しひのわらわありし童子どうじの遙とほくよりちまみえくをとれしと

わらわの句く句くを冠かんしりて孝かう多たみふくくを我われ父母ふぼにむひひけるゆ

顔かほに清きよりしと其その親おやを釋しやくくの難なん文ぶんがつりしととらりたりと

其その諱なづかなりしと諱なづかしりしとわらわのふしと天皇てんがう 用明 我われ兒こ聖せい令たまふ

とわらわの争まがひりしとわらわの敵たひありしとわらわの妃きを中なかつけしとわらわの

わらわの平氏へいし





風雅

旅人のゆき

名のみ

花小ぢはる

まの本れ

あ家

な

風雅

遊回丘





遊回丘 岡飛鳥三村の

明日香の遊回岳の杖杖はり入雨にちりりたるらん 丹比真人

舟人のゆゑの岡しむるのわをこんやそらや彼かむ 家持

飛鳥川ゆゑの岡の葛のつるやんよあまの恨も 香光園入道

岡本宮 舒明天皇の皇居 又舒明天皇の御本宮の遷りたる所なり 又舒明天皇の御本宮の遷りたる所なり

治田神社 岡村のあり今 遊回 大和志高多初丈苑の條に載り未考

笛吹の社の神はるるさく遊の岡やり通くらん 大酒言之任

倭彦命墓 一丈四方あり 人皇十一代垂仁天皇の母后の御本宮あり 口津守

廿八年十月に於てとものく十月身被排花鳥坂の陵ふらむらむらり其頃

のふらむらむらり其頃 陵のむらむらり其頃

たれを久く身被とて朝夕悲むるを涙ふ 天皇の御本宮あり

ゆひく御心悲傷一足いみじの風俗なるやと不若あり 後年止

むらむらと悲し小詔一むいれ 日本

鬼削 鬼肉几 倭彦命の御本宮あり 田の中あり 是石削石削入り石蓋あり

人かまやや 大和志高多初丈苑の御本宮あり 大石

五片かまのくは磨礪精功ありて今半は毀る石棺石蓋路傍に

棄り土人鬼削鬼肉几とゆふ

檜前川 前川あり 眞子に至り眞子川とゆふ

古くは志高多初丈苑の御本宮あり 檜前川の水は

約とむらひの隈川の産清み月え新か梅はるるの那 檜前川

於羨阿志神社 檜前村あり 傍に大根田二村の氏神あり 神石は出

欽明天皇陵 平田村あり 俗に梅とよみ入陵考圖之

は陵の傍に御心悲傷一足いみじの風俗なるやと不若あり 後年止

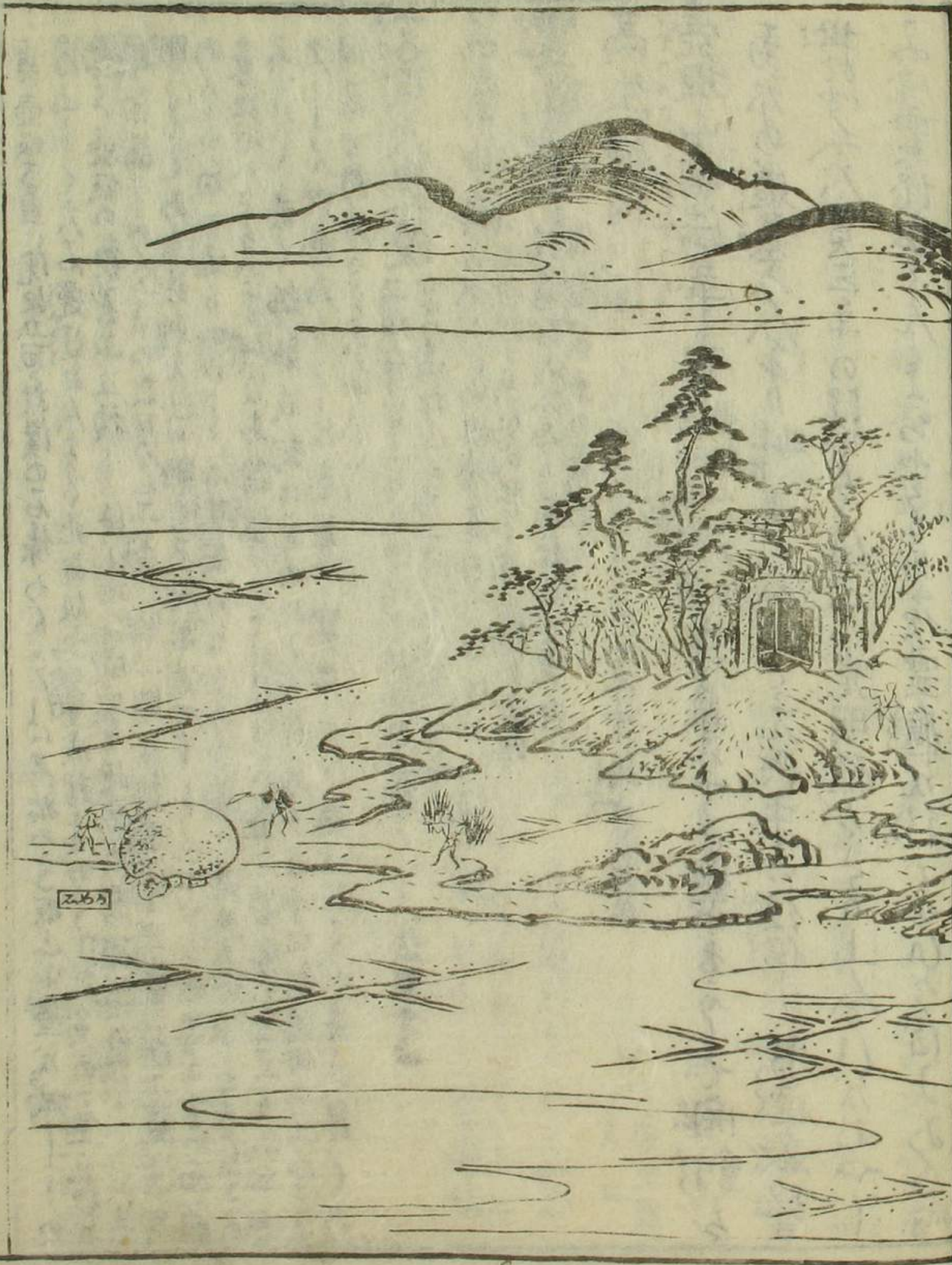
十月八日平田村池田といふ所より石像あり 西郷隆盛の御本宮あり

堀川の王推現と称は是安法俗説なり 堀川の王推現と称は是安法俗説なり

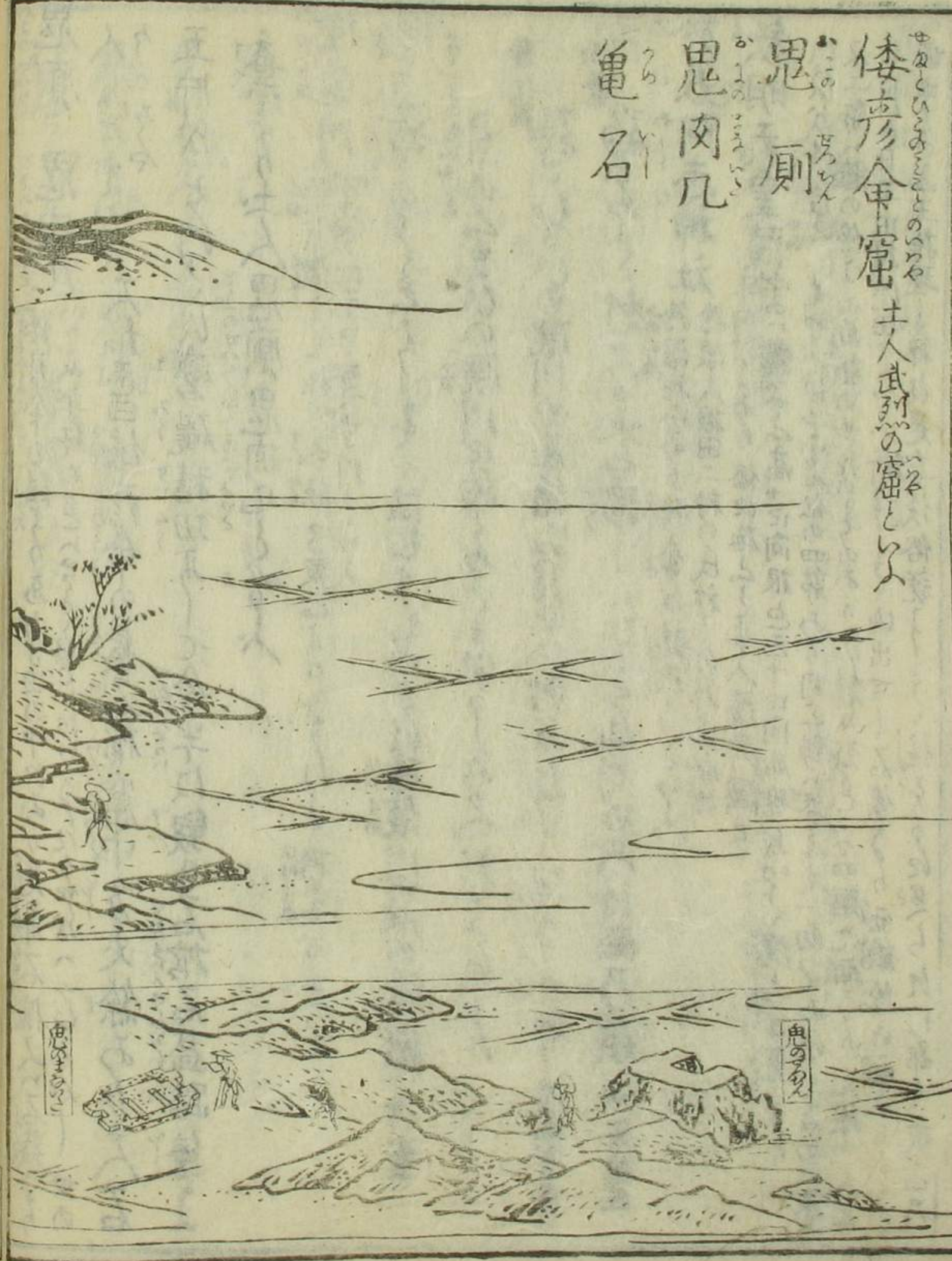
堀川の王推現と称は是安法俗説なり 堀川の王推現と称は是安法俗説なり

堀川の王推現と称は是安法俗説なり 堀川の王推現と称は是安法俗説なり





五ノ三



中ねといふ所のいり  
 倭彦命窟 土人武列の窟といふ  
 鬼 厠  
 鬼肉几  
 亀石

五ノ三

五ノ三



奥壺坂の奥院に五百羅漢の石像あり其始りて取山小壘城に  
壺坂の親なる小立願一終小功成り此昂大悲權護の旗  
影のあり然則は四軀其時影造り巨巖の面小羅漢の  
ありて初て造りしは巨巖に其時影造り巨巖の面小羅漢の  
意に叶はざるは巨巖に其時影造り巨巖の面小羅漢の  
久しく理とありしは巨巖に其時影造り巨巖の面小羅漢の  
因縁と作りしは巨巖に其時影造り巨巖の面小羅漢の

文武天皇陵 平田村の西あり俗に仲流の石墓といひ入陵圖考曰

子島神祠 小島村にあり今古ま日と称は

靈鷲寺 法智家教の墓あり

高生神祠 壺坂の土上あり天正年中清水谷村に

壺坂山南法華寺 清水谷村の東 本尊は千手觀世菩薩にて開創は

南郊の道基上人あり上人はもと元興寺の住侶して智徳名譽

世に傳へ大寶三年の比乎といひ小光明結々たり上人は元興寺

ふ心垂地と云ふと云ふり日夜靈應を行ふといふはよある時

千子の相成現し千眼光の故は上人歡喜するなり

水精の壺小納の安坐あり元正天皇は圓る長老の

ありと大の内證八葉の蓮華は表し八角の殿は建堂一具外禮堂

寶塔塔樓経蔵巍々たり又一説小元興寺の海辨僧正の因基とて

伽藍用 大寶三年に佐伯足子の尼若心建堂一具

鎮守祠龍藏權現へ若孫川本根の例より出現し龍神ありといや

五百羅漢石 兩界曼陀羅石 壺坂より八町にあり高取のあり

奥院にありのち此真典上人造立と縁起に云ふ

傍小石燈燼あり勒曰慶長十一年休多俊政創立之

鷹馬鞭の相傳あり

高取山城 高取山にあり小堂一宇ありのやに用ひの石塔あり

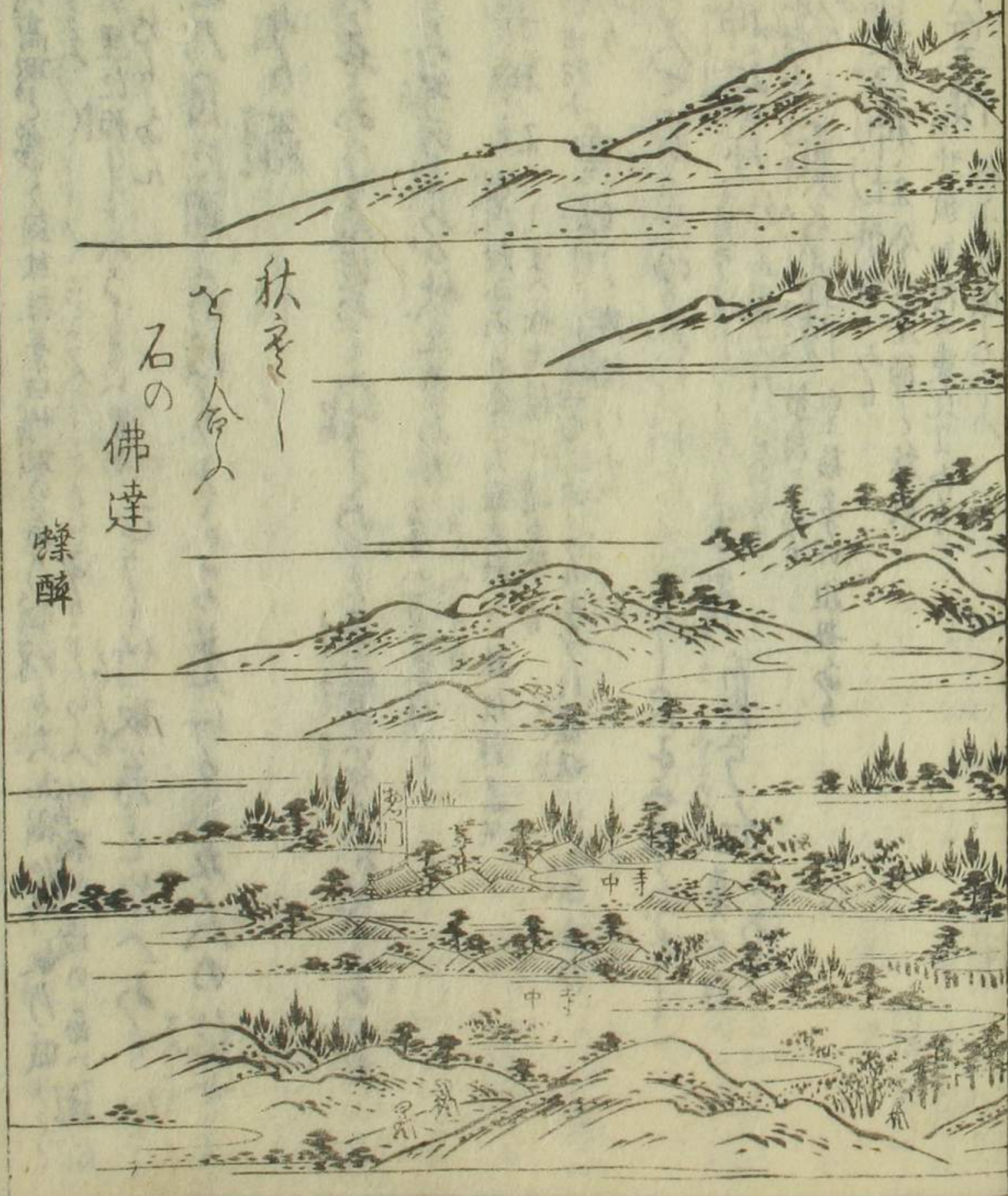
子嶋寺 高取山にあり小堂一宇ありのやに用ひの石塔あり

伽藍は建立一丈八尺の觀自在の像あり

清水の延通と觀恩は保と同人異名なりと釈をにやれり

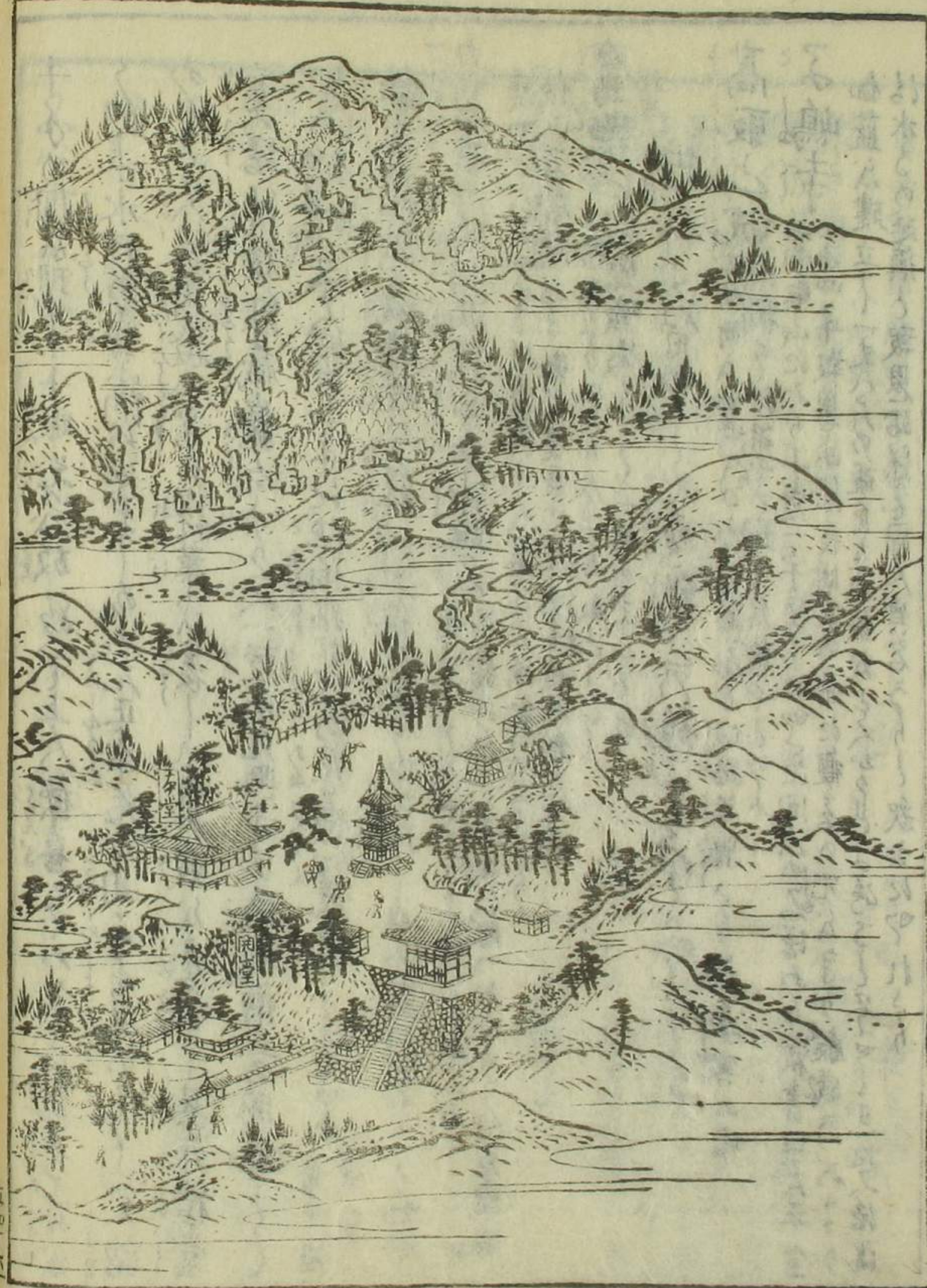


壺坂寺



秋  
石の  
佛達

藤  
醉





竹取 今高取の書り詞林採葉曰竹取の翁乃阿婆と大和國に竹取乃城と云ふ  
園大綱の里に似し人々を別れむ竹取翁といふありけり  
季子妻乃月に園よのほりくふ先けり九人の仙女  
をいかり公ね

死をせあひいんばあしけくあしを白髪よせにひざあや  
又とらあまのよめる秋九首あり 妻い万葉集に

波多賑井神社 内村小あり今天照太神と称し神名此

佐田丘 佐田村小 重坂川 杉隈川小入

約る人ていざんゆんはく川にるさくくを中とふて

櫛王命神社四座 真弓村小あり今八幡と称し 真弓丘 真弓村

越野 越野村小 真弓丘 皇極寺の祖母あり

許世都比古神社 今五老神と称し

齊明天皇皇陵 北越智村の東北あり

巨勢山坐石棕神社 今在村東南あり 鳥坂神社 今天照太神と称し

宣化天皇陵 七間池あり外小塚あり今土人曰民内墓といふ

石棕小塚 今在村 牟佐坐神社 今在村あり神名此出

益田池 大和志曰弘仁四年聖武天皇北に遊居たに南を杉隈川と云ふ

其後釋空海性靈集小云云 槽とて碑身を今さひり

久米のやうり花出とて入添小益田池のゆと云ふ遺り其あふ

つとそ池尻村といふあり是より南小碑とて今其聖王今ふのれに池尻より

こまそ里むの向むいしはるり碑銘大の池と云ふも思ひやれり

今僅いのころと云ふとあるむの池の岸と云ふ所弘法大師の建

好ひ碑の破石あり碑の代みいり外小の外小の代みいり

由縁と云ふに其碑文世小竹と云ふ末に至り縦横放蕩るる大

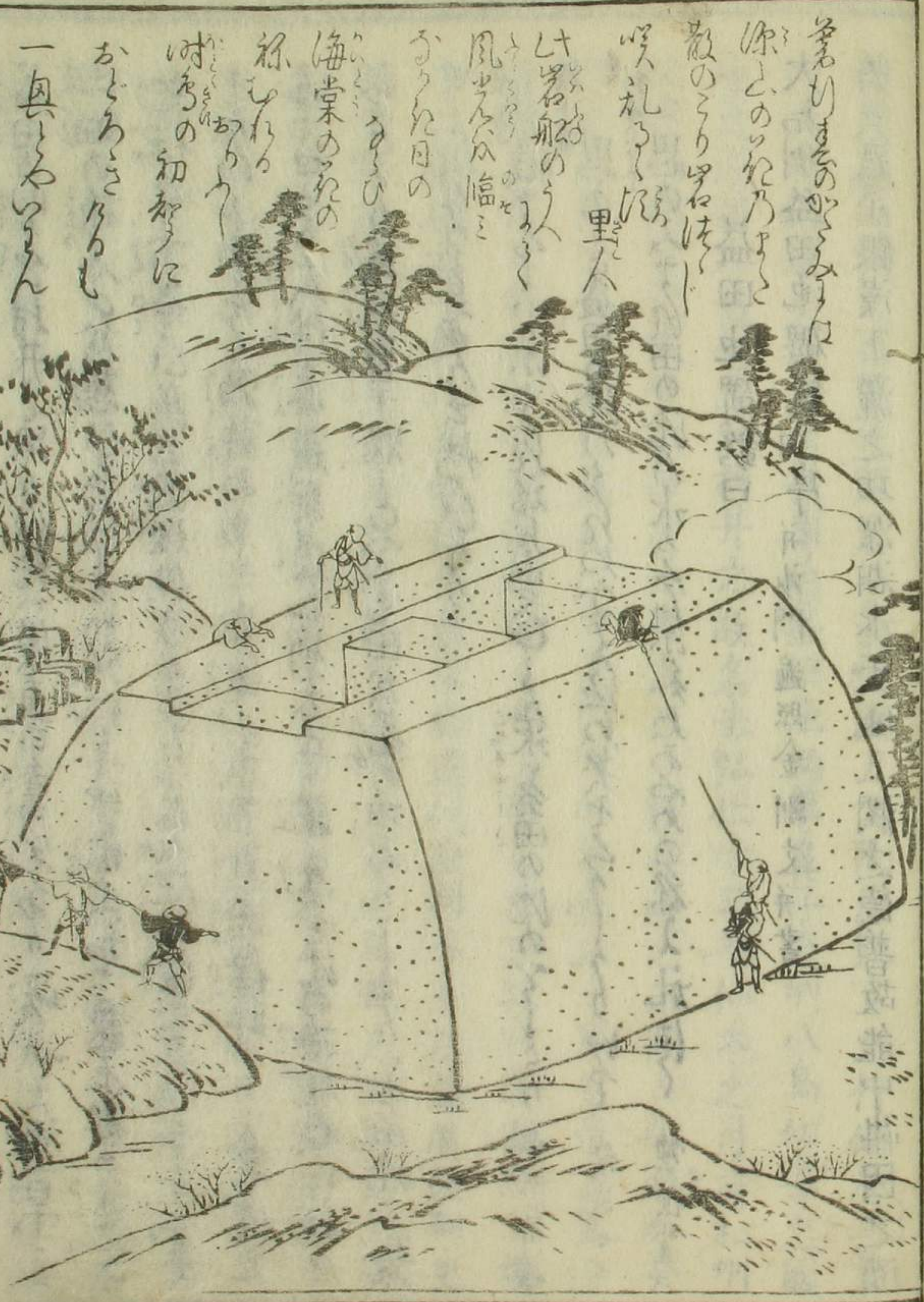
字小しと云ふ試にこれと連続して今其許多の大碑あり

益田の碑石高取城の石垣に積込ありと云ふ人いふと云ふ七里廻り

城うらむをいふにむといふ人いふと云ふ断碑の悲しむとの代小云



益田岩船



第切まのやまの  
原ふのつた乃ま  
敷のより岩船ト  
嘆れさくは  
里人  
け岩船のう人  
風少んん臨こ  
ふうれた日の  
海棠のたの  
縁ひらり  
時考の初知りに  
かともさ  
一真とるさん



益田の旧々村井と云りは地ハ漢直の舊宅あり暖我大皇早  
田畑の務人の愁ひあり弘仁年中大和藤原朝臣連三  
紀守末等ハ所の地理住るるの久しき人池を堰てへこり奉  
しつるをやく勅許ありしより繩末等直園律師と云はれ  
ゆせり大伴藤原國道大和太守藤原と沈の檢校職に補せ  
らるり或人曰早魁と云も田益の功ありしより益田沈と號  
せしけり

金系  
波すくういふうねを定むん米多田の沈のそり  
思のそ益田の沈乃うねぬかえ絶ぬ笑そりけり  
思のみやう田の沈乃水くくしぬぬあやの糸入礼は  
後十載  
新條古  
後成女  
順徳院

益田池碑銘曰

大和州益田池碑銘 并序 并沙門遍照金剛文并書

若夫感星銀漢下灑之功深湖水天地上潤之德普故能中崙因之而

鬱茂蟲仰賴之而長生至若八氣播殖五文陶冶北方之行偏居其最  
坎之爲德遠矣哉皇矣哉粵有益田池兩尊鼻子之州八鳥初導之國  
地是漢諳之舊宅号則村井之故名去弘仁十三年仲冬之月前和州  
監察藤原言紀大守末等慮九陽之可支歎膏暎之未開占斯勝馭奏  
請之綸詔即應爰則令藤原二公及四律師等叙功未幾皇帝逝駕冷  
襄藤公從之辭職紀守亦遷越前 今上膺堯揖讓馭舜寶圖照王燭  
乎二儀撫赤子於八鳥簡伴平章事國道代檢國事並拔藤原任判史  
兩公檢校池事於焉青鳧引塊數千之馬日聚赤馬驅人百計之夫夜  
集既而車馬轟々而電徃男女礮々而雷歸土零々而雪積堤倏忽而  
雲騰宛如靈神之擬埴還疑洪鑪之化産成也不日畢也不年造之人  
也辨之天也爾乃池之爲狀也九龍寺右鳥陵大墓南聳臥傍北峙米  
眼精舍鎮其良武遮荒壘押其坤十餘大陵聯綿虎踞四面長阜遷池  
龍卧雲蕩松嶺之上水激檜隈之下春繡映池觀者忘歸秋錦開林遊



人不供鴛鴦鳥鴨戲水奏歌玄鶴黃鵠遊汀爭舞龜鼈延頸鯢鯉掉尾  
淵獺祭魚林鳥反哺泊如積水含天疊山倒景深也似海廣也起淮笑  
昆明之非儔晒搗達之猶少虎嘯鼓濤則驚沃沃漠龍吟決堤則客與  
不飽襄陸之罔象不得溢其塘焦山之女魃不能涸其底六部蒙濶萬  
澮湯々一人有慶兆民賴之舞之蹈之詠千箱以擊腹千之足之唱萬  
歲而忘力歎蒼海之數變索銘詞平余筆貪道不支當仁固辭不能謀  
虛吐章迺爲銘曰

希夷象帝 一末萌 盤古不出 國常無生 元氣倏動  
葦芽乍驚 八風扇鼓 五才縱橫 日月運轉 山河錯峙  
千名森羅 萬物雜起 藤層既隱 稷杭爰始 天地人地  
灑露功似 前堯後禹 慮厚恤人 智略廣運 慈悲且仁  
機事不測 成功若神 潤物如雨 榮人似春 綸繖雷震  
右司創功 紀藤薙草 泉續圓豐 伴相施計 原守在公

良才奇術 民具靡風 爰有一坎 其名益田 堀之人力  
成也自天 車馬霧聚 男女雲連 歸來似子 畢功不年  
深而且廣 鏡徹紺色 混濛渺渺 瞻望罔極 百溪之宗  
萬派之職 魚鳥涵泳 虬龍斯匿 畎澮汎溢 畱畬播殖  
孳孳我執 擬々我橋 如坻如京 足兵足食 井田我事  
堯帝何力

觀鷺百譚云益田沈の潭銘の真迹は瀨田國ありといふ今換りては益田の  
是よりと稱之高野山明王院にもありといふ撰寫と互慰とりにたは低印の  
異同あり

久米御縣神社 久米村あり今天神と  
林あり 神名帳出

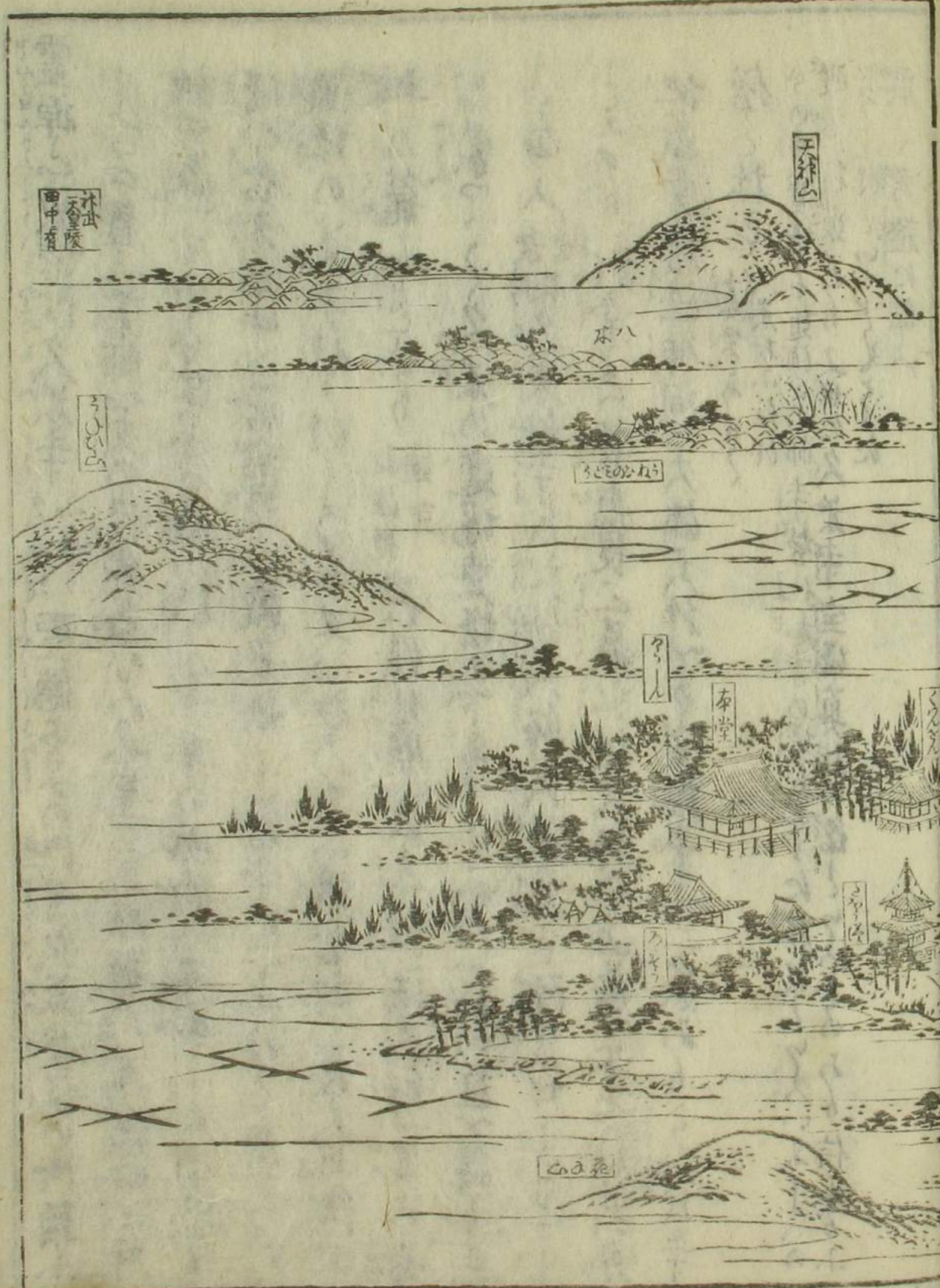
久米川 檜隈川ありて久米に至る  
真字川といふ

輕樹村坐神社 此所の舊邑輕子村あり今社廢れ  
神名帳に二代実派出

安寧天皇陵 石田村神代井の西あり  
同所あり井の東南にあり

綏靖天皇陵 志那寺村の東あり  
俗に王膳塚といふ陵の南小  
仙人塚あり陵方曰陵の高サ二向廻九十八回





林武  
天會陵  
田中看

天祥山

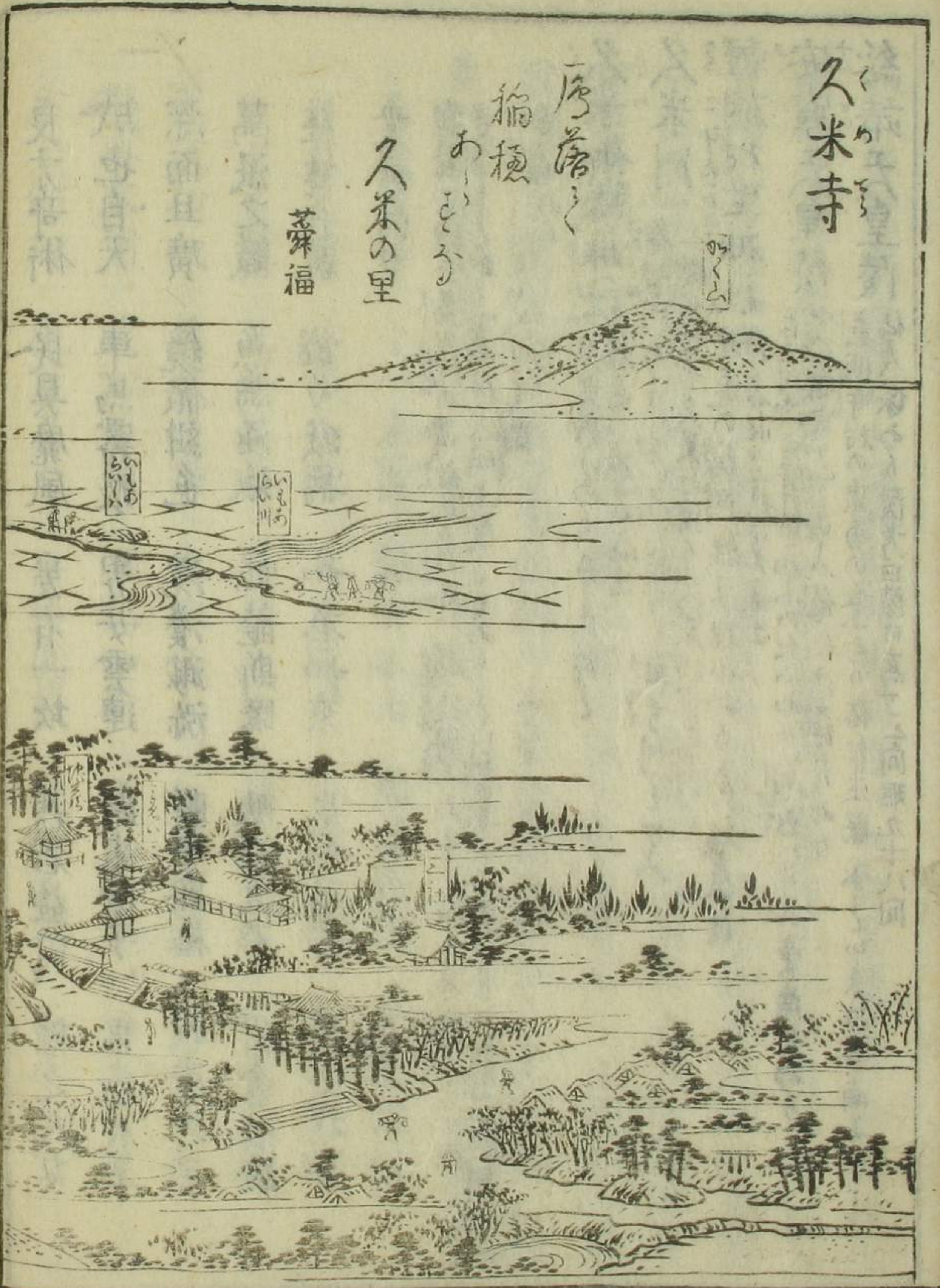
八

久米の里

久米

本堂

山花



久米寺

一序落く

楡極

あゝいふ

久米の里

藤福

山花

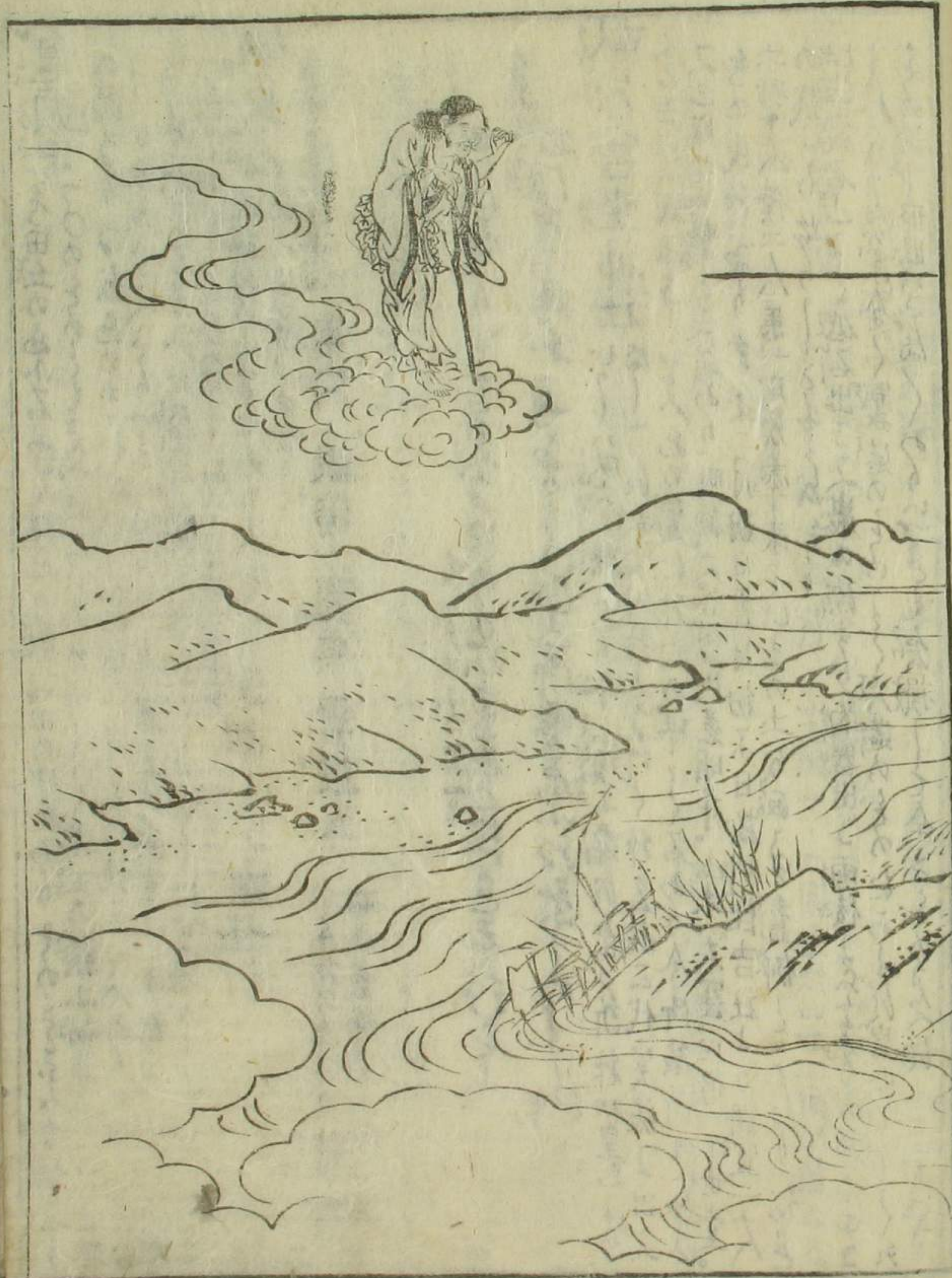
山花

山花









釋書曰

久米仙者和州上郡  
 入深山学仙法食松葉  
 服辟邪茹一旦騰空過  
 故里會婦人以足踏  
 浣衣其腔甚白急  
 生深心時墜石浴

つれづれ

久米の仙人のお  
 あゝ女のこゝろの  
 ちろまなをて通ん  
 うさひん海に  
 ちのこゝろを  
 まゝふ肥あ  
 うゝんかの人  
 ろ〇まも  
 あらん





鬼頭田 も田丘のあふ石あり他は頭二田の中ありそのこまきむるをせうの頭よりなるあゆめをえりて久し一ツいぢれういぢれ炎玉の類小似たり一ツは係りくそ水なりへりりいとわいと信ふ其の比といへりありありの類ここを竹垣とかり人に隣り石櫓の蓋をくろりりいにてのつゝ水なりえ  
畝火山 畦樋村の上方にあり大和志曰魏鑑として特立し他にお速るる  
畝火 畝傍 雲飛 雲根火 八本村の南一里計俗小慈明寺といふ

畝火山口坐神社 ひりい畝火山麓にあり今と頂小遷りあり新井功皇后より宮寺に國孫ちといへり人の林麓に神祠の址とく石あり今所新井といふ又と腹に馬鞍と云所あり畦樋大谷吉田慈明寺山本大窪は條小世堂冬の氏神あり毎冬二朔朔日霜月初子日括州住吉社より禰宜一人土村一人僕二人馬一疋が奉来といふの土を取る舊例といへり  
畝火山 畝火山麓にあり今と頂小遷りあり新井功皇后より宮寺に國孫ちといへり人の林麓に神祠の址とく石あり今所新井といふ又と腹に馬鞍と云所あり畦樋大谷吉田慈明寺山本大窪は條小世堂冬

思ひあやらいともさるるにむらびき飛たにけとまむと人  
おほく小房を鳴るるうひし神原小お系しり  
畝火山 畝火山麓にあり今と頂小遷りあり新井功皇后より宮寺に國孫ちといへり人の林麓に神祠の址とく石あり今所新井といふ又と腹に馬鞍と云所あり畦樋大谷吉田慈明寺山本大窪は條小世堂冬

懿德天皇陵 畦樋村のあ織沙溪にあり祠廟ハ村の東北小あり字イトク小荒陵あり此尻村小属は傳云皇后の陵とす  
娘子塚 大久保村むらけ所に娘あり容顔義豔ありてやりの人道後より顧く賞と名を櫻田といふ二人の壮士ありてこれ

意和平 むらけ死して相害を永くせんといふ林の中に入り樹に懸り盗り死に萬葉集小序にむらけ  
大窪廢寺 大久保村小址あり親名堂是こ又地名小東金堂ある金堂あり

高市御縣神社 比條村小あり今高縣宮と稱はる  
井谷井 比條村小あり神井今之墓こ九早小竭せり御陵山小祠あり緋靖帝の

御陵山 比條村小あり神井今之墓こ九早小竭せり御陵山小祠あり緋靖帝の

御陵山 比條村小あり神井今之墓こ九早小竭せり御陵山小祠あり緋靖帝の





天満山  
長寶寺





神武天皇陵 和歌山縣日高郡日高町 和歌山縣日高郡日高町 和歌山縣日高郡日高町

陵式曰 畝傍と東北陵畝傍檀原宮御宇 神武天皇在太初國高市

郡兆域東西一町南北二町守戸五烟

古事記曰 畝火之北方白檮尾上 性靈集益田池碑銘序曰 畝傍北峙

畝傍と今をふるの西南六里久米方の北あり俗にいふ高明寺宮之

東北の陵百年前よりわら壊れと舊田といふ土民其田をゆん神武

甲と字と暴行しうりて痛哭とてその名又數畝に餘り

一封と農夫といふ登りて怪し七怪しせむといふ觀におんを寒んせ

とといふるる一夫神武天皇神代草昧の蹤と継東征して中

別とたらしめ四門と開く八方を朝せし王道の興治教の表實に

小創作我國の君は億兆小至はを尊信といへる廟陵あり

日本紀曰神武天皇神代七十六年三月檀原宮より一廟とて一廟とて一廟とて一廟とて

七歳神代神武天皇神代七十七年三月檀原宮より一廟とて一廟とて一廟とて一廟とて

宗我都比古神社 神名此之代実派出

蕪我河原 蕪我河原北にたつる多上 蕪我河原北にたつる多上 蕪我河原北にたつる多上

類聚國史萬葉集卷之九 宗我とつひ

真菅若宗我の川系小川傍はかゝりて古くは

小細村 は新の影を友といふ 小細村は新の影を友といふ 小細村は新の影を友といふ

大高市神社 名我社の南小あり今高市八幡と称れ 大高市神社は名我社の南小あり今高市八幡と称れ

一カ代 名をとり昔より我々といふとてその宮小川に縁

地黄村 は新地芝 地黄村は新地芝 地黄村は新地芝

人麻呂祠 地芝村小あり傍に池あり 人麻呂祠は地芝村小あり傍に池あり

明神の御法

玉葉集 神代人麻呂墓の傍に小祠を明神に

古くは菅の下の下をるるをばはとるのなをんや

金橋宮 曲川村小あり安閑天皇の皇居の地 金橋宮は曲川村小あり安閑天皇の皇居の地

太玉命神社 忌部村小あり神名此之代実派出 太玉命神社は忌部村小あり神名此之代実派出

川俣神社 名我村小あり今川股八王子と称れ 川俣神社は名我村小あり今川股八王子と称れ



稻代坐神社 常門村小あり今多分祠と 天神祠 根成様村小あり社名石燈を有す  
 長法寺 常門村小あり寺前に石燈あり 法器山寺 在所不詳  
 菅丞相山莊 在所不詳 昌泰元年十月十九日太上天皇 宇多 御鷹侍に吉孫の  
 宮瀧山莊 在所不詳 昌泰元年十月十九日太上天皇 宇多 御鷹侍に吉孫の  
 其外六位等廿二人はさるゆめり上皇容馬ふりく道とつり  
 寺に巡遊せしむるふ素性法師茶駈ふをまひりける廿二日  
 とり入の高布那右大將の山莊に所一宿ふとせ給ひて和奇ふや  
 たりしより帝王編年記にふりたり

大和名所圖會卷之五 尾

上野北河町拾四番地  
 伊勢屋  
 岡 新兵衛

樂天堂

住持了道

氣  




樂天堂

佐藤了齋

藏書